

## 「第 2 期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」のパブリックコメントの実施 について 説明資料

### 1 第 2 期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略

まち・ひと・しごと創生法第 10 条の規定に基づいて、本市の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画として平成 27 年度に策定した「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に引き続き、令和 2 年度からの「第 2 期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第 2 期総合戦略」という。）」を策定します。

内容としては、本市における今後 5 ヶ年のまち・ひと・しごと創生に関する目標や本市が講ずる施策に関する基本的方向等を定めるものです。

### 2 第 2 期総合戦略策定までの経緯と今後の予定

- (1) 第 2 期総合戦略の策定着手について市議会に報告（令和元年 8 月 15 日）
- (2) 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の開催（令和元年 8 月 16 日）
- (3) 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の開催（令和元年 10 月 4 日）
- (4) 第 2 期総合戦略（案）のパブリックコメント実施について市議会で報告（令和元年 12 月 13 日）
- (5) 第 2 期総合戦略（案）のパブリックコメントを実施予定（令和元年 12 月 20 日～令和 2 年 1 月 19 日予定）
- (6) 第 2 期総合戦略策定を市議会で報告予定（令和 2 年 3 月予定）

### 3 第 2 期総合戦略の概要

資料 4 「第 2 期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）概要版」を参照

[資料 1]第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)、[資料 2]生駒市人口ビジョン<改訂版>(案)、

[資料 3]パブリックコメントの実施に係るチラシ、[資料 4]第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)概要版

パブリックコメント案

## 第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

---

[令和2（2020）年度 ▶ 令和6（2024）年度]

# 目次

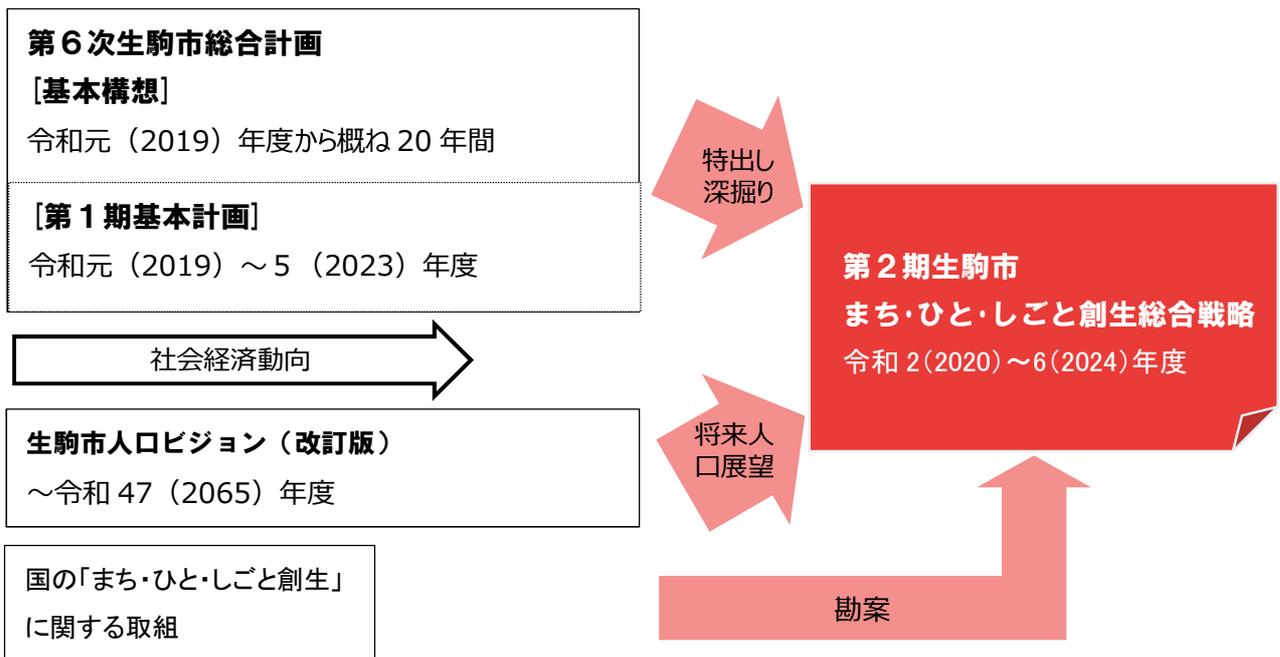
<b>第1章 基本的考え方</b> .....	1
1. 計画の位置づけ .....	1
2. 計画期間 .....	1
3. 推進体制 .....	2
<b>第2章 人口ビジョンと今後の取組の方向性</b> .....	3
1. 人口ビジョン .....	3
(1) 人口動向 .....	3
(2) 将来推計人口 .....	3
(3) 人口の将来展望 .....	4
2. 課題と今後の取組の方向性 .....	5
(1) 人口動向から導き出される課題 .....	5
(2) 取組の方向性 .....	5
<b>第3章 基本目標</b> .....	7
<b>第4章 総合戦略の施策体系</b> .....	8
<b>第5章 基本目標に基づく施策</b> .....	9
基本目標1 子育てしやすいまち .....	10
基本目標2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち .....	36
基本目標3 働き盛り世代が住みたいまち .....	52

# 第1章 基本的考え方

## 1. 計画の位置づけ

生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、国が定める「まち・ひと・しごと創生総合戦略・長期ビジョン」及び「生駒市人口ビジョン（改訂版）」を勘案し、本市の「まち・ひと・しごと創生」に向けた目標や施策の基本的方向、施策をまとめたものです。

本市では、令和元（2019）年度から概ね20年間を計画期間とする第6次生駒市総合計画により、まちづくりの基本的な考え方や目指す将来都市像、計画期間内における施策を基本構想の中で体系的に示しています。第2期総合戦略は、第6次生駒市総合計画が掲げるまちづくりの基本的な考え方や将来像などの市としての普遍的な方向性や、第6次生駒市総合計画第1期基本計画に位置付けられた施策との整合にも留意しつつ、本市を取り巻く社会経済動向や、人口動向に係る主要課題を捉え、施策を講じるターゲットを明確にしなが、今後急速に進行する人口減少を和らげ、将来にわたって活力あるまちを維持していくための具体的な取組を定めるものです。



## 2. 計画期間

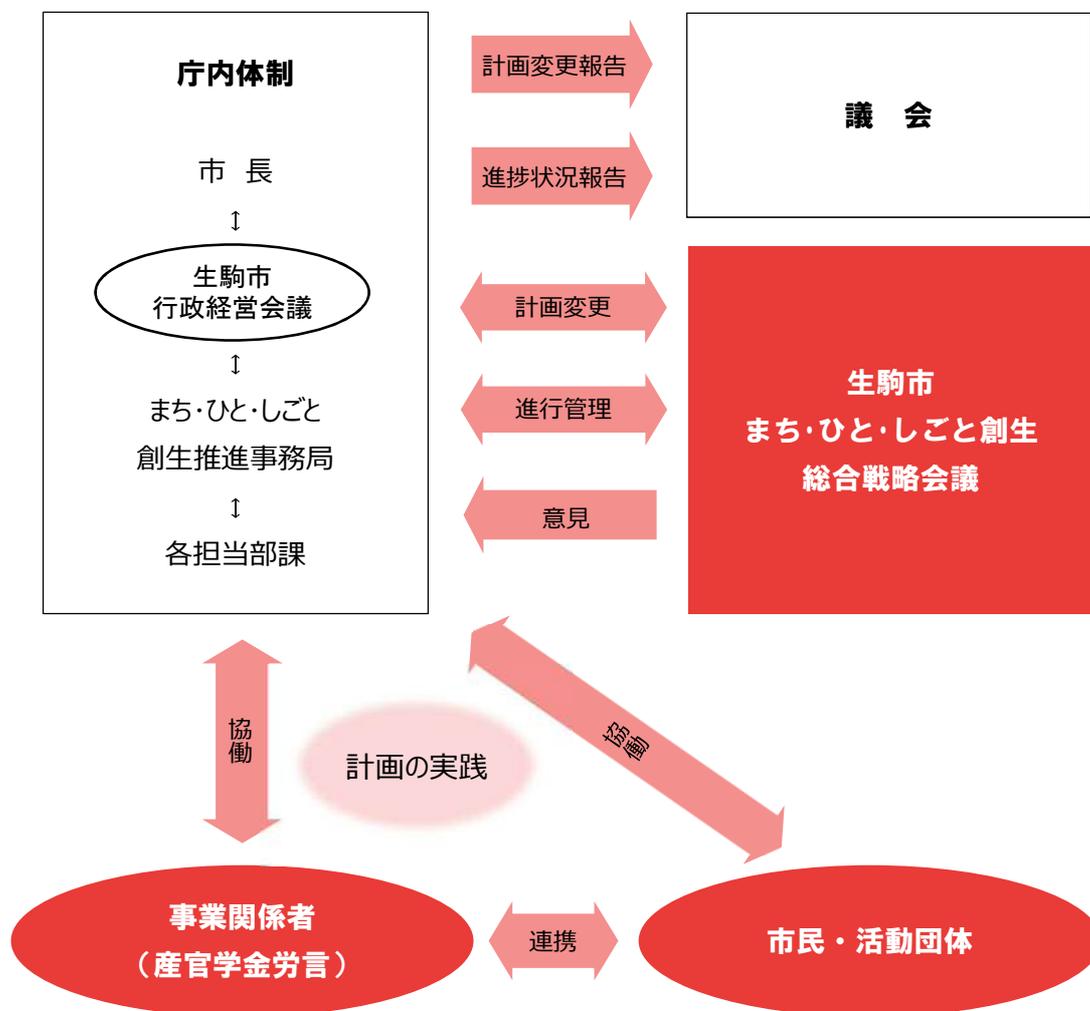
第2期総合戦略の計画期間は、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの5年間とします。

### 3. 推進体制

第2期総合戦略を策定するため、人口動向や就労に関する分析や第1期総合戦略の進行管理を行うとともに、各種団体・事業者等における有識者によって構成する「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を開催し、意見交換を行いました。

総合戦略は、計画期間内において確実な成果を達成するため、状況変化に応じて柔軟に事業内容を見直し、関係する全ての主体がそれぞれの役割を發揮しながら取組を進めていく必要があります。

そこで、行政の執行部門と地域の事業関係主体とが、協働によりPDCAサイクルを実践することが可能となるよう、各担当部課が進捗状況を「生駒市行政経営会議」に報告し、「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」の意見を得ながら、「生駒市行政経営会議」において、計画の進捗状況を検証し、柔軟に事業の見直しや追加等の計画変更を実施していくものとします。



## 第2章 人口ビジョンと今後の取組の方向性

### 1. 人口ビジョン

#### (1) 人口動向

生駒市はこれまで、自然増、社会増と両方が増加することで大きく人口が増加してきました。

自然動態では、出生数が死亡数を上回り、「自然増」を続けてきたものの、近年は死亡数が増加傾向にあるのに対し、出生数は減少傾向にあり、現在は死亡数が出生数を上回る「自然減」の状況となっています。合計特殊出生率は微増傾向となっていますが、2015年で1.34（翌年1月1日現在の住民基本台帳をもとに市で独自に算出）と、奈良県の1.38を下回っています。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の意向調査によると「未婚者の希望子ども数」は2.02人、「既婚者の理想子ども数」は2.32人となっており、合計特殊出生率の数を上回っています。また、結婚に関する意識調査によると、結婚に必要な状況として、「経済的に余裕ができること」が42.4%と最も大きくなっており、さらに、理想の子ども数を持ってない要因として意識調査によると「経済的な負担が大きいから」が59.6%と最も大きくなっており、次いで「育児と仕事との両立が出来ないから」が19.2%、「年齢的な理由で難しい」が17.3%となっています。こうした状況は、結婚や出産に対する社会的な経済措置に対する不安が解消できていないことや、女性の高学歴化に伴う晩婚化・晩産化が進んでいることが背景になっていると考えられます。

一方、社会動態では、転入が転出を上回り、「社会増」を続けてきたものの、近年は転入が減少傾向で、転出は横ばい傾向にあり、現在は転出が転入を上回る「社会減」の状況となっています。転入では、30歳代とその子どもに当たる世代の5歳未満が転入超過となっており、転出では20歳代が転出超過となっています。これは、大学進学や就職によって若者が転出する一方で、生駒市の住宅環境や通勤等の利便性を求めて子育て世帯が転入していることによるものと考えられます。

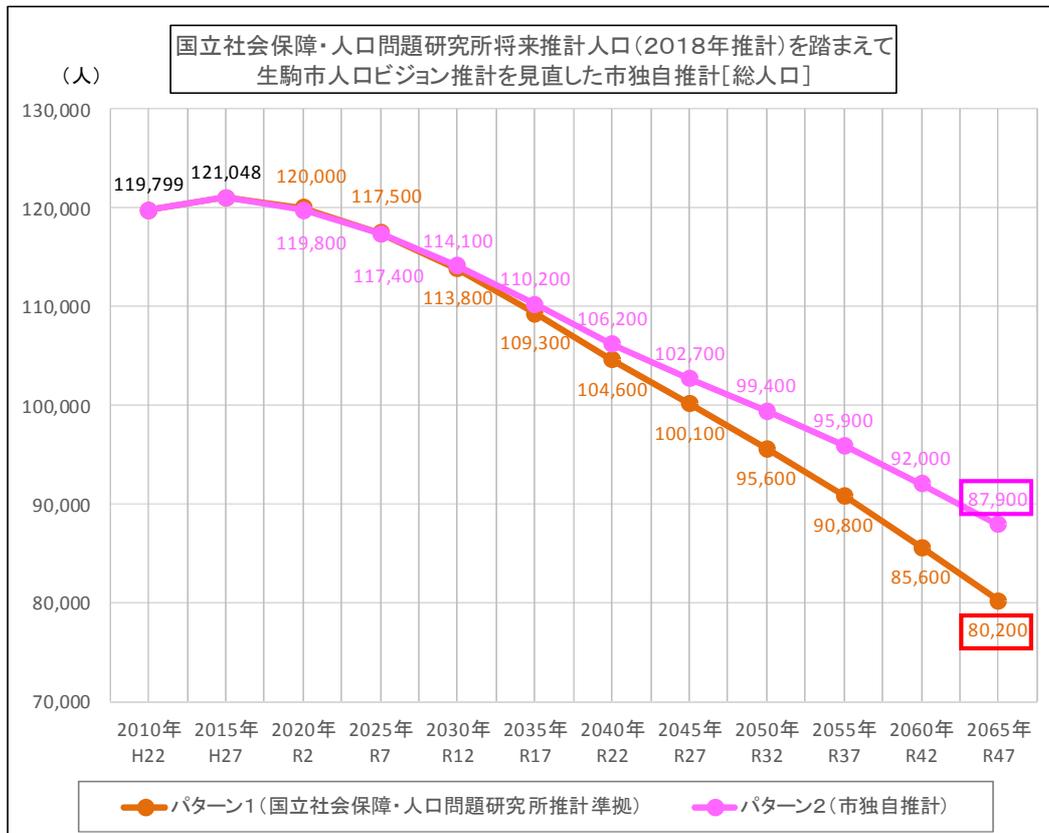
#### (2) 将来推計人口

社人研による出生率と移動率を用いた推計では長期的には将来人口は減少し、2065年には8万人程度となる見通しとなっています。そこで、市の社会動態の特性や直近の年齢別人口、国の長期ビジョンの推計を踏まえた出生率を用いて独自に仮定値を設定し、本市の将来人口がどのように変化するかを独自に推計しました。

その結果、本市の特性である30歳代、40歳代前半の流入傾向が継続しつつ、出生率が上昇するよう取組を進めると、人口は2065年には9万人弱程度を維持できる見通しとなっています。また、自然増減と社会増減が人口に与える影響度を把握するため、比較シミュレーションを行ったところ、社会増減の影響度に比べて自然増減の影響度が高いことが判明しました。そこで、市独自推計の条件として、出生率を国の長期ビジョンでの想定と同様に上昇させると想定し、「出生率を5年で0.1上昇させ、2055年に2.06に到達する（2060年には人口置換水準2.07）」という仮定にて推計を行いました。

### (3) 人口の将来展望

独自推計による将来推計人口では、2020年以降本格的に人口減少が進み、その後も一貫して減少を続けるものの、2065年においても9万人弱程度（約8万7,900人）を維持する見通しとなります。



< 仮定 >

パターン	合計特殊出生率	移動率	内容
パターン1	2020～2045年は社人研の値とし、その後は同水準で推移すると仮定	2010～2015年に観察された本市の移動傾向が2045年まで継続し、その後同水準で推移すると仮定	社人研の推計準拠
パターン2	人口動態・保健所市町村別統計の数値 2015年 1.26 (2008年～2012年) を基に、国の長期ビジョンの上昇率に準拠し、5年で出生率0.1上昇し、2055年に2.06まで上昇すると仮定 (2060年に2.07)	基本的にはパターン1と同様とするものの、30歳代、40歳代前半については、本市の特性である流入傾向が継続すると仮定	市独自推計

図 パターン別の推計人口

## 2. 課題と今後の取組の方向性

### (1) 人口動向から導き出される課題

本市における出生率の低迷は、人口減少の抑制に向けて優先して取り組むべき課題です。意識調査の結果を踏まえると、理想の子ども数を持たない最大の要因は「経済的負担」となっており、25～44歳の働き盛り世代の経済的負担を緩和することが必要です。

また、30歳代の転入の鈍化や20歳代の就職に伴う転出の増加など、人口の社会移動が低迷してきていることが、もう一つの課題です。

### (2) 取組の方向性

出生率の低迷に対しては、保育機能の強化や母子保健の充実、幼児教育・保育の無償化、医療費助成の継続等により、子育てにかかる負担を軽減し、子どもを産み、育てやすい環境を整備することが考えられます。

加えて、市内産業の活性化を図りつつ、テレワークや在宅勤務などワーク・ライフ・バランスを考慮した多様な働き方を推進することで、子育て層の女性をはじめ働き盛り世代の市内就労の拡大を図るとともに、自らの優れた知識や技能を発揮して、市内で自ら起業できるような環境を整備し、職住近接による就労支援を図ることにより、経済力の向上につなげることが考えられます。

これら両面から子育て世帯を中心に働き盛り世代を経済的に支援し、不安を解消していくことで、子育て世帯が理想の子ども数を実現できる環境が整い、出生率の向上につながると見込まれます。

社会移動の低迷に対しては、市外にまちの魅力を効果的に発信し、都市ブランドの形成と交流人口の拡大を図るとともに、流入人口が増える仕組みを構築するため、子育て・教育施策を中心とした行政施策の充実による転入促進策に加え、今後は住宅都市においても変化するライフスタイルにあわせた、多様な住まい方・暮らし方の推進により、まちの魅力発信をはじめU I Jターンを促す取組を進め、主に大阪や京都などに居住する働き盛り世代が移り住みたいと思う魅力的なまちづくりを進めることが考えられます。

また、企業誘致や市内での起業促進により職住近接を実現し、職を求めて市外へ転出する20歳代の若年層の転出抑制につなげることが考えられます。加えて、子どもの頃からまちへの愛着やシビックプライドの醸成を図ることで、成長とともに市外へ転出した子ども達（若者）の将来的なUターンの可能性を高めるとともに、働き盛り世代を中心に幅広い世代にも同様にそれらの醸成を図ることで定住促進につなげることが考えられます。

転入増加と定住促進の両面から施策を展開していくことで、社会移動の均衡を維持していくことが期待できます。

上記の方向で取組を進め、出生率の向上と社会移動の均衡の維持を図ることにより、人口減少の抑制の実現を目指します。

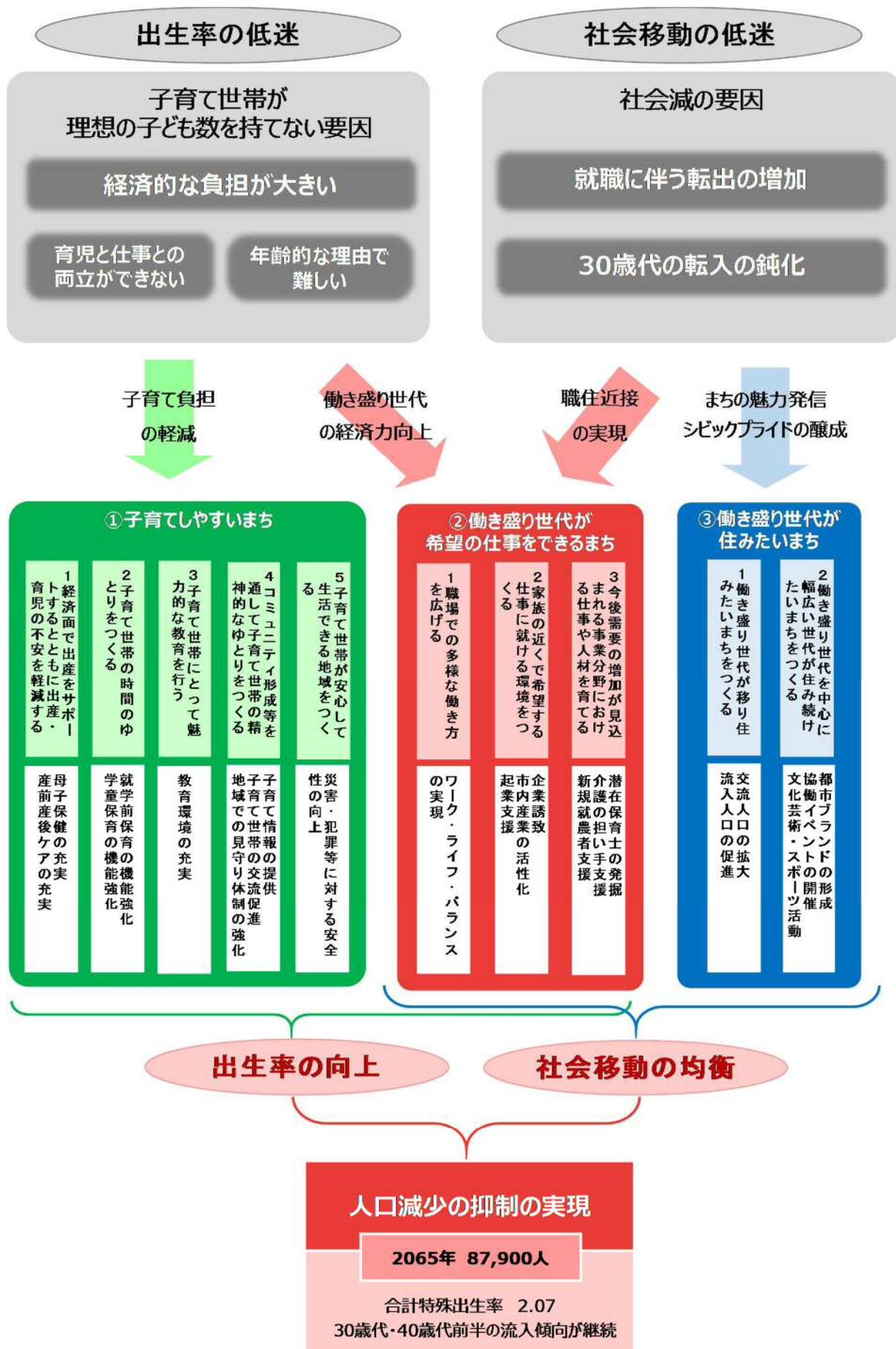


図 課題と今後の取組の方向性

## 第3章 基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策構成及び本市の人口展望に見る取組の方向性を踏まえつつ、出生率向上施策と25～44歳の働き盛り世代の社会増につながる施策への取組が人口減少を和らげる上で効果的であること、また、本市の市民は優れた知識や技能を持った人が多く居住しているながらも、特に子育て層の女性については就業率が低く、その高いポテンシャルを活かしきれていないこと等から、本市の総合戦略では、子育て世帯を主なターゲットとしつつ、働き盛り世代に焦点をあて、以下の3つの「基本目標」に示す目指すまちの姿を展望して、具体的な取組を着実に進めていきます。

### 基本目標1 子育てしやすいまち

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもの数を持ち、ゆとりを持って生活（子育て）している。</li> </ul>
数値目標	①合計特殊出生率
	②子育て世帯の住みやすさの満足度

### 基本目標2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するなど家族の近くで希望の仕事ができている。</li> </ul>
数値目標	①市内従業者数
	②法人設立届出数

### 基本目標3 働き盛り世代が住みたいまち

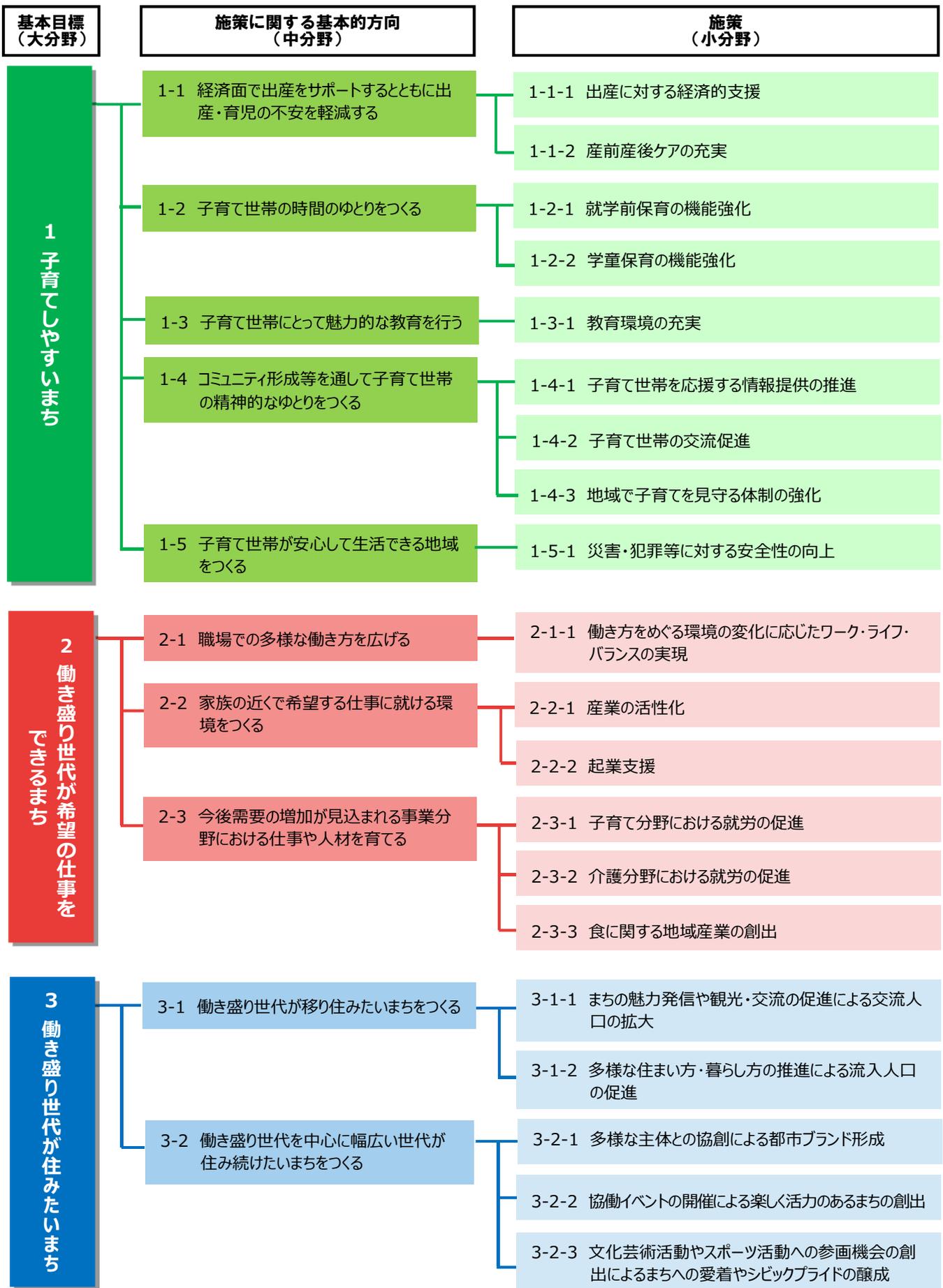
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。</li> </ul>
数値目標	①働き盛り世代（25～34歳）の純移動数（転入-転出） 働き盛り世代（35～44歳）の純移動数（転入-転出）
	②働き盛り世代の定住意向

#### 総合戦略で目指すまちの姿

**『働き盛り世代が多様な働き方・暮らし方を選択でき、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられるまち』**

上記のとおり総合戦略では、子育て世帯を主なターゲットとし、子育てしやすいまちを目指すとともに、働き盛り世代に焦点をあて、希望のしごとができるまちや住みたいまちを目指しており、本市においては、計画期間中、『働き盛り世代が多様な働き方・暮らし方を選択でき、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられるまち』の実現に向けて「まち・ひと・しごと創生」に取り組んでいきます。

## 第4章 総合戦略の施策体系



# 第5章 基本目標に基づく施策

## 具体的な取組における体裁の変更点

第1期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、基本目標に基づく施策に紐付けた、具体的な取組ごとに重要業績評価指標（K P I :Key Performance Indicator）を設けていました。第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、K P I の性質をさらに明確にするため、行政の事業に対する具体的な活動量や活動実績を示すアウトプット指標、活動に基づく成果を示すアウトカム指標を併記することとし、具体的な取組の体裁を以下のとおりとします。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ S D G s
① 取組名	取組内容	担当課名	SDG s アイコン

■ K P I （アウトプット指標）	■ K P I （アウトカム指標）
<p>①-1 アウトプット指標名</p> <p>アウトプット指標の説明（担当課名）</p>	<p>①-A アウトカム指標名</p> <p>アウトカム指標の説明（担当課名）</p>

また、令和元年7月1日に、生駒市が「SDG s 未来都市」に選定されたことを踏まえ、今後はSDG s を達成するために様々な課題に対して、経済・社会・環境の総合的な視点で取り組む必要があることから、SDG s の視点を第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも反映します。

このことから、具体的な取組ごとに、関連するSDG s の17のゴールを示すアイコンを付しています。



## 基本目標1

## 子育てしやすいまち

### <目指す姿>

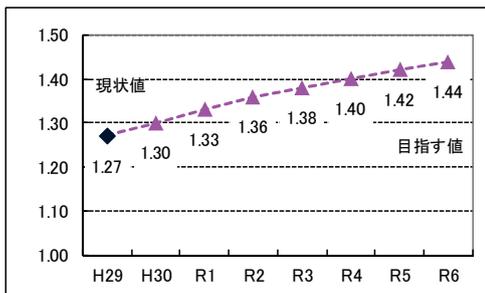
- 多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもを持ち、ゆとりを持って生活（子育て）している。

### <数値目標>

■目標指標 1 ①	■現状値 (H29)	■目標値 (R6)
合計特殊出生率	1.27 人	1.44 人
■目標指標 1 ②	■現状値 (R1)	■目標値 (R6)
子育て世帯の住みやすさの満足度	5.52 点	6.02 点

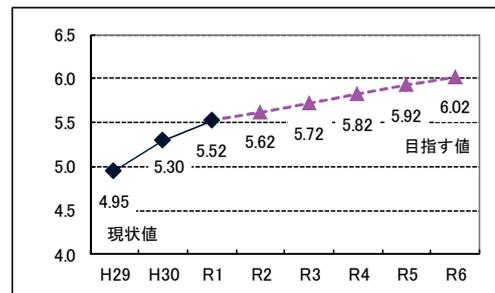
#### ■目標指標のグラフ

1 ① 合計特殊出生率 (人)



女性が一生のうちに産む子どもの数を示したもので、翌年 1 月 1 日現在の住民基本台帳をもとに市で独自に算出。出生率向上に向けた施策を実施することにより、令和 6 年度には 1.44 人を目指します。

1 ② 子育て世帯の住みやすさの満足度 (点)



市民満足度調査における「総合的な住みやすさの満足度」を 7 点満点で評価したもので、就学前の子ども、小学校・中学校の子どもを持つ回答者の平均値。

子育て支援を充実させ、毎年度 0.1 点増やし、令和 6 年度には 6.02 点を目指します。

※ H30、R1 実績値は WEB 調査によるもの。

## <施策に関する基本的方向>

### 1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する

経済的な負担や子育ての不安を理由に、出産を躊躇している世帯に対して、経済的な負担や出産・育児の不安の軽減を目指します。

### 1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる

就学前保育や学童保育に関する機能を充実することによって、子育て世帯の時間のゆとりをつくれます。

### 1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う

I C T 機器を積極的に活用した教育や外国語学習を行うことで、未来を見据えた確かな学力を育むとともに、心の教育を充実させるなど地域力を生かした魅力的な教育を行います。

### 1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる

市外からの転入が多い生駒市において、コミュニティの中での子育て世帯相互の仲間づくりを支援することにより、悩み相談や相互の見守りができるような関係づくりを促し、子育て世帯が参加しやすい地域活動、子育て世帯同士が子育てと社会参加を互いに協力し合えるような仕組みをつくり、精神的なゆとりをつくれます。

### 1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる

災害や犯罪に対して不安に感じることなく暮らすことができる地域づくりを進めることにより、子育て世帯が安心して生活できる地域環境の整備を目指します。

## <施策に関連するSDGs>



## ■ 現状と課題

全国的に若年層を中心に経済的な自立に不安を感じる人が増える中、生駒市においても出産・育児・教育等、子育てに必要な費用に対する不安を理由に、2人目、3人目の出産を躊躇する世帯が多くなっています。

## ■ 施策の方針

そのため、子育て世帯の経済的負担の軽減として、出産に関する医療費の助成や母子保健の充実に取り組み、不安を軽減することで、ひとりでも多くの子どもの出生に繋がります。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs	
①	<b>不育症治療費及び一般不妊治療費助成</b>	子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不育症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。	健康課	 3 すべての人に健康と福祉を
②	<b>母子保健の充実</b>	健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。 また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。	健康課	 3 すべての人に健康と福祉を

1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																			
<p>①-1 不育症治療費及び一般不妊治療費助成のPR件数(件)</p> <table border="1"> <caption>①-1 不育症治療費及び一般不妊治療費助成のPR件数(件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R1</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R2</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R5</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R6</td><td>4</td><td>4</td></tr> </tbody> </table> <p>不育症治療費及び一般不妊治療費助成についてPRした年間件数。 定期的にPRを継続することにより、制度の周知徹底を図ります。 (健康課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	4	4	R1	4	4	R2	4	4	R3	4	4	R4	4	4	R5	4	4	R6	4	4	<p>①-A 不育症治療費助成支給件数(件)</p> <table border="1"> <caption>①-A 不育症治療費助成を行なった件数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>14</td><td>14</td></tr> <tr><td>R1</td><td>22</td><td>22</td></tr> <tr><td>R2</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr><td>R3</td><td>38</td><td>38</td></tr> <tr><td>R4</td><td>46</td><td>46</td></tr> <tr><td>R5</td><td>54</td><td>54</td></tr> <tr><td>R6</td><td>62</td><td>62</td></tr> </tbody> </table> <p>不育症治療費助成を行なった件数。(累計) 助成金を交付することにより、子育て世帯の経済的負担を軽減します。 (健康課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	14	14	R1	22	22	R2	30	30	R3	38	38	R4	46	46	R5	54	54	R6	62	62			
年度	現状値	目指す値																																																		
H30	4	4																																																		
R1	4	4																																																		
R2	4	4																																																		
R3	4	4																																																		
R4	4	4																																																		
R5	4	4																																																		
R6	4	4																																																		
年度	現状値	目指す値																																																		
H30	14	14																																																		
R1	22	22																																																		
R2	30	30																																																		
R3	38	38																																																		
R4	46	46																																																		
R5	54	54																																																		
R6	62	62																																																		
	<p>①-B 一般不妊治療費助成支給件数(件)</p> <table border="1"> <caption>①-B 一般不妊治療費助成を行なった件数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>174</td><td>174</td></tr> <tr><td>R1</td><td>233</td><td>233</td></tr> <tr><td>R2</td><td>292</td><td>292</td></tr> <tr><td>R3</td><td>351</td><td>351</td></tr> <tr><td>R4</td><td>410</td><td>410</td></tr> <tr><td>R5</td><td>469</td><td>469</td></tr> <tr><td>R6</td><td>528</td><td>528</td></tr> </tbody> </table> <p>一般不妊治療費助成を行なった件数。(累計) 助成金を交付することにより、子育て世帯の経済的負担を軽減します。 (健康課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	174	174	R1	233	233	R2	292	292	R3	351	351	R4	410	410	R5	469	469	R6	528	528																											
年度	現状値	目指す値																																																		
H30	174	174																																																		
R1	233	233																																																		
R2	292	292																																																		
R3	351	351																																																		
R4	410	410																																																		
R5	469	469																																																		
R6	528	528																																																		
<p>②-1 乳幼児健診受診率(%)</p> <table border="1"> <caption>②-1 乳幼児健診受診率(%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>94.8</td><td>94.8</td></tr> <tr><td>R1</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>R5</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> <tr><td>R6</td><td>96.2</td><td>96.2</td></tr> </tbody> </table> <p>乳幼児健診(3か月児・7か月児・12か月児・1歳6か月児・3歳6か月児)の平均受診率。子育て支援の観点から踏まえて健診を実施することにより、乳幼児の健やかな成長・発達を図ります。 (健康課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	94.8	94.8	R1	96.2	96.2	R2	96.2	96.2	R3	96.2	96.2	R4	96.2	96.2	R5	96.2	96.2	R6	96.2	96.2	<p>②-A 育児に関する市民実感度(点)</p> <table border="1"> <caption>②-A 育児に関する市民実感度(点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H29</td><td>70</td><td>70</td></tr> <tr><td>H30</td><td>70</td><td>70</td></tr> <tr><td>R1</td><td>72</td><td>72</td></tr> <tr><td>R2</td><td>72</td><td>72</td></tr> <tr><td>R3</td><td>72</td><td>72</td></tr> <tr><td>R4</td><td>74</td><td>74</td></tr> <tr><td>R5</td><td>74</td><td>74</td></tr> <tr><td>R6</td><td>76</td><td>76</td></tr> </tbody> </table> <p>市民満足度調査における「育児」に関する施策の進捗実感度を得点化したもの。 保護者が安心して子育てができるよう支援し、令和6年度には76点を目指します。 (健康課) ※ H29実績値は第5次総合計画後期基本計画に掲げる「4年後のまち」の進捗実感度</p>	年度	現状値	目指す値	H29	70	70	H30	70	70	R1	72	72	R2	72	72	R3	72	72	R4	74	74	R5	74	74	R6	76	76
年度	現状値	目指す値																																																		
H30	94.8	94.8																																																		
R1	96.2	96.2																																																		
R2	96.2	96.2																																																		
R3	96.2	96.2																																																		
R4	96.2	96.2																																																		
R5	96.2	96.2																																																		
R6	96.2	96.2																																																		
年度	現状値	目指す値																																																		
H29	70	70																																																		
H30	70	70																																																		
R1	72	72																																																		
R2	72	72																																																		
R3	72	72																																																		
R4	74	74																																																		
R5	74	74																																																		
R6	76	76																																																		

小分野	1-1-2	産前産後ケアの充実
-----	-------	-----------

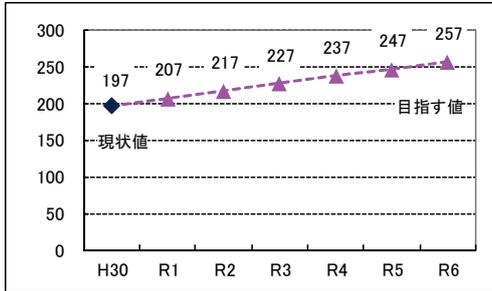
■ 現状と課題
核家族化の進行や家族関係の多様化などにより、産褥期 <sup>さんじよくき</sup> ※に家族等からのサポートが受けられず、産婦の身体的・精神的な負担が増加し、さらに生まれてきた子にも十分なケアが行われない状況が増えてきています。
■ 施策の方針
そこで、妊娠・出産・育児に関する様々な悩みに対応し、必要な情報提供・助言・保健指導を行うことで、産婦の心身の安定と育児不安を解消し、安心して産み育てられる環境を整えます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>マタニティコンシェルジュの配置</b>	妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。	健康課 
②	<b>産後サポートの充実</b>	産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。	健康課  

※ 出産してから妊娠前の状態に戻るまでの期間のこと。

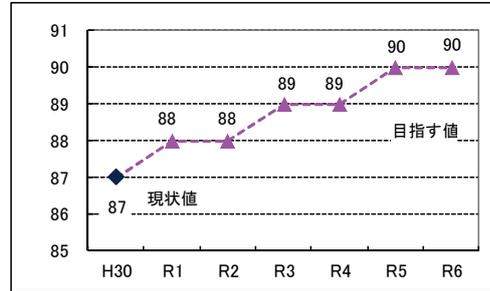
■ K P I (アウトプット指標)      ■ K P I (アウトカム指標)

①-1 マタニティコンシェルジュへの相談件数 (件)



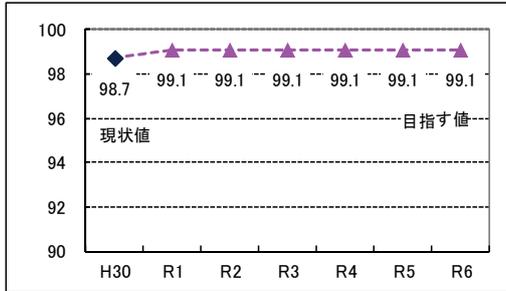
マタニティコンシェルジュに対する年間相談延べ件数。安心して妊娠・出産・子育てができるよう、専門職による相談支援を行います。(健康課)

①-A 育児について相談する相手がいる人の割合 (%)



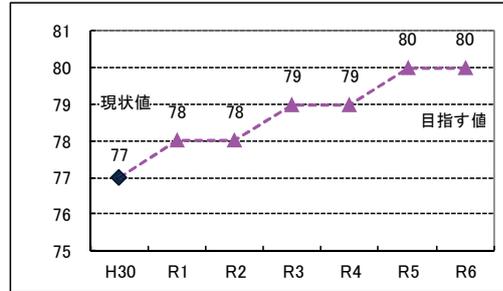
3か月児健康診査問診項目において、育児について相談できる相手がいると回答した人の割合。安心して子育てができるよう、専門職による相談支援を行います。(健康課)

②-1 新生児・乳児訪問の実施率 (%)



新生児訪問やこんにちは赤ちゃん事業など、乳児期に行った保健師・助産師訪問の実施率。出産後の不安を抱えやすい時期に、専門職による訪問を行うことで、育児に関する知識の普及や不安の解消を図り、母親の心身の健康状態の安定を図ります。(健康課)

②-A 産後の専門職による支援の満足度 (%)



3か月健康診査問診項目において、産後の専門職による支援について満足していると回答した人の割合。出産後の不安を抱えやすい時期に、専門職による支援を行うことで、育児に関する知識の普及や不安の解消を図り、母親の心身の健康状態の安定を図ります。(健康課)

## ■ 現状と課題

市内でも多くの保育所が運営されていますが、女性の活躍推進や幼児教育・保育の無償化に伴い、保育需要はさらに増加することが予想されます。また、幼稚園における就学前教育のニーズがある一方で、就労形態の多様化により、標準教育時間が短い幼稚園でも長時間の保育が求められています。

## ■ 施策の方針

そのため、未就学児を育てる子育て世帯に対し、子育てと仕事等の両立支援として、保育所における保育機能の充実を図るとともに、幼稚園における預かり保育などの保育サービスの充実やこども園化の推進により、子育て世帯が利用しやすい保育所や幼稚園の仕組みを整えることで、子育て世帯の時間のゆとりをつくります。

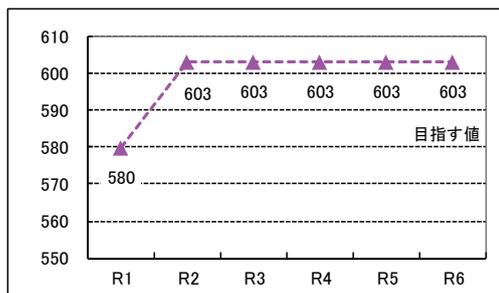
■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>保育所の整備</b> 増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のこども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組めます。	こども課	 
②	<b>保育士の確保</b> 増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組めます。	こども課	  

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																
<p>①-1 保育所利用定員数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-1 保育所利用定員数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>2,380</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>2,424</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>2,625</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>2,649</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>2,687</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>2,725</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>2,725</td> </tr> </tbody> </table> <p>市内保育所（公立・私立）の利用定員数（4月1日現在）。 公立保育園の園舎改修や小規模保育施設の開設等により、利用定員数の増加を図ります。（こども課） ※ 第6次総合計画第1期基本計画の指標を上方修正。</p>	年度	現状値	目指す値	H30	2,380		R1	2,424		R2		2,625	R3		2,649	R4		2,687	R5		2,725	R6		2,725	<p>①-A 実質待機児童数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-A 実質待機児童数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>63</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>77</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>市内保育所の私的理由による待機者を除く待機児童数（4月1日現在）。 既存保育施設の増築や小規模保育事業の推進等により、待機児童の解消を図ります。（こども課）</p>	年度	現状値	目指す値	H30	63		R1	77		R2		30	R3		22	R4		14	R5		6	R6		0
年度	現状値	目指す値																																															
H30	2,380																																																
R1	2,424																																																
R2		2,625																																															
R3		2,649																																															
R4		2,687																																															
R5		2,725																																															
R6		2,725																																															
年度	現状値	目指す値																																															
H30	63																																																
R1	77																																																
R2		30																																															
R3		22																																															
R4		14																																															
R5		6																																															
R6		0																																															
<p>②-1 「資格をいかそう！相談会」参加者数 (人)</p> <table border="1"> <caption>②-1 「資格をいかそう！相談会」参加者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>32</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>34</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p>潜在保育士発掘のための「資格をいかそう！相談会」の年間延べ参加者数。 保育士・幼稚園教諭の資格を有しながら、就業していない方の就業不安に応えるため、自分に合った働き方を紹介し、雇用に結びつける相談会を実施します。（こども課）</p>	年度	現状値	目指す値	H30	32		R1	34		R2		36	R3		38	R4		40	R5		42	R6		44	<p>②-A 「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数 (人)</p> <table border="1"> <caption>②-A 「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>相談会参加者のうち市内保育所・こども園・幼稚園での雇用者数。（累計） 相談会以降のマッチングや職場体験を通して、雇用者数の増加を目指します。（こども課）</p>	年度	現状値	目指す値	H30	7		R1	8		R2		9	R3		10	R4		11	R5		12	R6		13
年度	現状値	目指す値																																															
H30	32																																																
R1	34																																																
R2		36																																															
R3		38																																															
R4		40																																															
R5		42																																															
R6		44																																															
年度	現状値	目指す値																																															
H30	7																																																
R1	8																																																
R2		9																																															
R3		10																																															
R4		11																																															
R5		12																																															
R6		13																																															
<p>②-2 保育所入所児童数 (人)</p> <table border="1"> <caption>②-2 保育所入所児童数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>2,366</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>2,349</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>2,625</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>2,649</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>2,687</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>2,725</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>2,725</td> </tr> </tbody> </table> <p>市内保育所（公立・私立）に在籍している児童数（4月1日現在）。 施設の利用定員数に見合った人数を受け入れられるよう保育士の確保に努めます。（こども課）</p>	年度	現状値	目指す値	H30	2,366		R1	2,349		R2		2,625	R3		2,649	R4		2,687	R5		2,725	R6		2,725																									
年度	現状値	目指す値																																															
H30	2,366																																																
R1	2,349																																																
R2		2,625																																															
R3		2,649																																															
R4		2,687																																															
R5		2,725																																															
R6		2,725																																															

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
③	<p><b>保育コンシェルジュの活用</b></p> <p>増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組めます。</p>	こども課	
④	<p><b>就学前保育・教育サービスの充実</b></p> <p>働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に応じた就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。</p>	こども課	 

■ KPI（アウトプット指標）

③-1 保育コンシェルジュ相談件数（件）

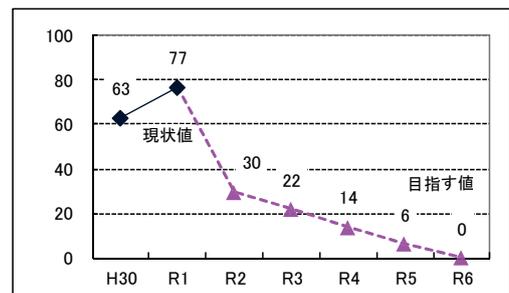


保護者のニーズや状況に適した保育サービスが利用できるよう、保育コンシェルジュが保護者への相談・情報提供等を行った年間延べ件数。

令和元年5月より開始しており、令和元年度見込値の4%増とこの件数の維持を目指します。（こども課）

■ KPI（アウトカム指標）

③-A 実質待機児童数（人）【再掲】

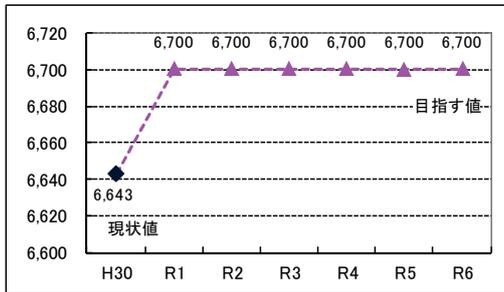


市内保育所の私的理由による待機者を除く待機児童数（4月1日現在）。

保育コンシェルジュによるマッチング等により、待機児童の解消を図ります。（こども課）

■ K P I (アウトプット指標)

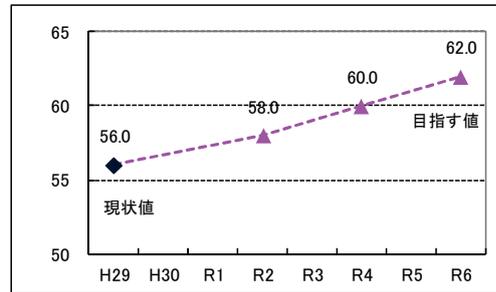
④-1 保育所での一時預かり保育利用児童数 (人)



保育所における一時預かり保育を利用した年間延べ児童数。実施することにより、保護者の多様な保育ニーズに対応します。(こども課)

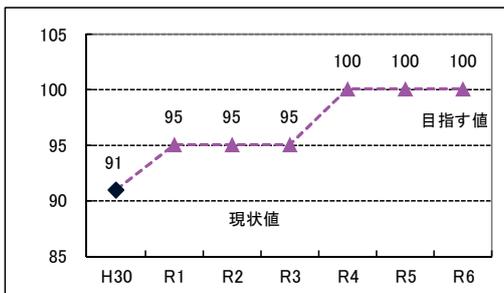
■ K P I (アウトカム指標)

④-A 保育サービスの満足度 (点)



市民満足度調査における保育サービスに対する満足度で、満足=100点、やや満足=75点、普通=50点、やや不満=25点、不満=0点として得点化したもの。保育サービスを充実することにより、令和6年度には62点を目指します。(こども課)

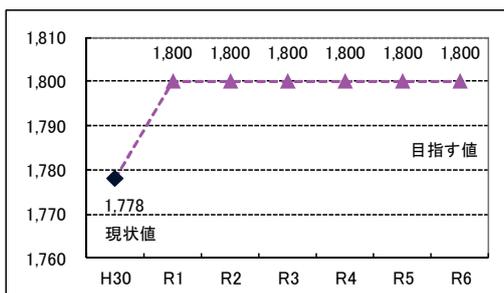
④-2 保育所での休日保育利用児童数 (人)



保育所における休日保育を利用した年間延べ児童数。実施することにより、保護者の多様な保育ニーズに対応します。(こども課)

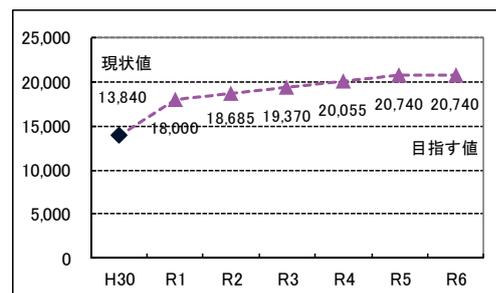
■ K P I (アウトプット指標)

④-3 病児・病後児保育利用児童数 (人)



病児・病後児保育を利用した年間延べ児童数。実施することにより、保護者の多様な保育ニーズに対応します。(こども課)

④-4 幼稚園での預かり保育利用園児数 (人)



公立幼稚園における預かり保育を利用した年間延べ園児数。実施することにより、保護者の多様な保育ニーズに対応します。(こども課)

## ■現状と課題

共働き世帯やひとり親家庭にとって、仕事と子育てを両立させるためには、子どもが小学校へ就学した後においても保育サービスの充実が欠かせません。

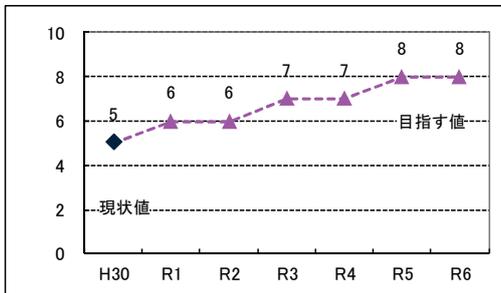
## ■施策の方針

こういったニーズに対応するため、学童保育についても、快適な保育環境を確保し、指導員の確保や民間保育事業者も含めた運営体制を充実させる取組を進めることで、子育て世帯の時間のゆとりをつくります。

■具体的な取組		■担当課	■SDGs
①	<b>学童保育の充実</b> 増加する保育需要に従い増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組めます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。	こども課	 

■ K P I (アウトプット指標)

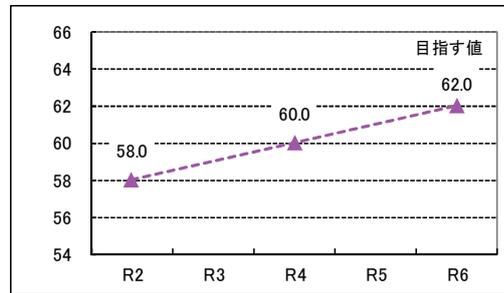
①-1 民間保育事業者による学童保育実施箇所数 (箇所)



民間保育事業者による学童保育の実施箇所数。  
様々な分野の民間事業者に対して働きかけることにより、2年毎に1箇所増加を目指します。(こども課)

■ K P I (アウトカム指標)

①-A 学童保育サービスの満足度 (点)



市民満足度調査における学童保育サービスに対する満足度で、満足=100点、やや満足=75点、普通=50点、やや不満=25点、不満=0点として得点化したもの(令和2年度から調査項目を新設)。  
学童保育サービスを充実することにより、令和6年度には62点を目指します。(こども課)

## ■ 現状と課題

学校教育については、子育て世帯の高い教育ニーズに対応するとともに、児童生徒一人ひとりが 21 世紀を生き抜いていけるよう「生きる力」のひとつである確かな学力を身につけることが求められています。また、子どもたちが自分の夢を持ち、自信を持って自己実現を図り、自己有用感を高めるための心の教育の充実と健やかな体を育成する取組が求められます。

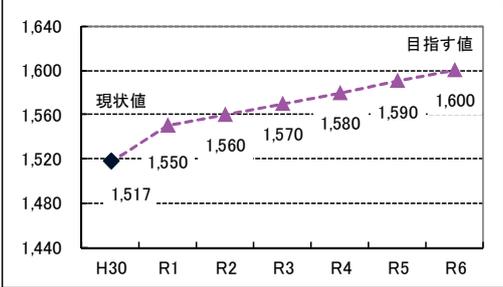
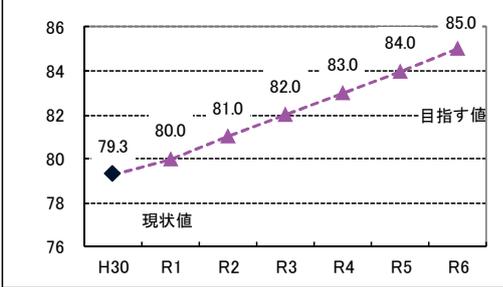
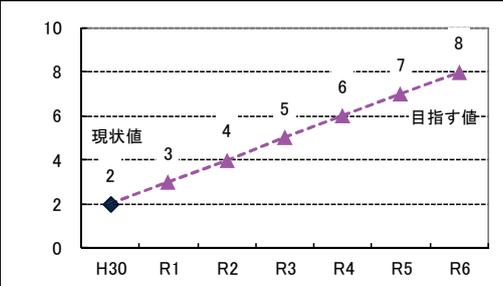
## ■ 施策の方針

そのため、主体的・対話的で深い学びを充実し、プログラミング的思考を身につけることを目的として、I C T 機器を活用した授業や体験活動の充実、英語の基礎的な力やコミュニケーション能力の育成に取り組みます。また、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材を育成するため、児童生徒に新しいチャレンジを促し、成功体験による自信を得るとともに、失敗した場合でもフォローすることで再挑戦を促す機会を確保できるよう支援します。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ S D G s
①	<b>I C T を活用した教育の推進</b> 教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、I C T 機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。	教育指導課	 
②	<b>英語教育の推進</b> 小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中 9 年間を見通したカリキュラムを作成したうえでの A L T の配置や、小学校 1 年生から市独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。	教育指導課	

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																											
<p>①-1 小中学校教員が授業に ICT を活用して指導する能力 (%)</p> <table border="1"> <caption>①-1 小中学校教員が授業に ICT を活用して指導する能力 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値 (%)</th> <th>目指す値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>70.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>71.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>72.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>73.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>74.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>75.0</td> <td>76.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>76.0</td> <td>76.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校における教育の情報化の実態等に関する調査における「授業に I C T を活用して指導する能力」という質問に対し、「できる」、「ややできる」と回答した教員の割合。 令和 6 年度に 76% 以上を目指します。(教育指導課)</p>	年度	現状値 (%)	目指す値 (%)	H30	70.0	76.0	R1	71.0	76.0	R2	72.0	76.0	R3	73.0	76.0	R4	74.0	76.0	R5	75.0	76.0	R6	76.0	76.0	<p>①-A 児童生徒の授業での ICT 活用への意欲度 (%)</p> <table border="1"> <caption>①-A 児童生徒の授業での ICT 活用への意欲度 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>上)小6 現状値 (%)</th> <th>上)小6 目指す値 (%)</th> <th>下)中3 現状値 (%)</th> <th>下)中3 目指す値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>87.0</td> <td>92.0</td> <td>78.0</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>88.0</td> <td>92.0</td> <td>79.0</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>89.0</td> <td>92.0</td> <td>80.0</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>90.0</td> <td>92.0</td> <td>81.0</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>91.0</td> <td>92.0</td> <td>82.0</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>92.0</td> <td>92.0</td> <td>83.0</td> <td>83.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>全国学力・学習状況調査における「授業でもっとコンピュータなどの I C T を活用したいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」、「やや当てはまる」と小学 6 年生と中学 3 年生が回答した割合。令和 6 年度には小学 6 年生が 92% 以上、中学 3 年生が 83% 以上を目指します。(教育指導課)</p>	年度	上)小6 現状値 (%)	上)小6 目指す値 (%)	下)中3 現状値 (%)	下)中3 目指す値 (%)	R1	87.0	92.0	78.0	83.0	R2	88.0	92.0	79.0	83.0	R3	89.0	92.0	80.0	83.0	R4	90.0	92.0	81.0	83.0	R5	91.0	92.0	82.0	83.0	R6	92.0	92.0	83.0	83.0
年度	現状値 (%)	目指す値 (%)																																																										
H30	70.0	76.0																																																										
R1	71.0	76.0																																																										
R2	72.0	76.0																																																										
R3	73.0	76.0																																																										
R4	74.0	76.0																																																										
R5	75.0	76.0																																																										
R6	76.0	76.0																																																										
年度	上)小6 現状値 (%)	上)小6 目指す値 (%)	下)中3 現状値 (%)	下)中3 目指す値 (%)																																																								
R1	87.0	92.0	78.0	83.0																																																								
R2	88.0	92.0	79.0	83.0																																																								
R3	89.0	92.0	80.0	83.0																																																								
R4	90.0	92.0	81.0	83.0																																																								
R5	91.0	92.0	82.0	83.0																																																								
R6	92.0	92.0	83.0	83.0																																																								
<p>②- 1 英検準 1 級以上の英語力を有する中学校英語担当教師の割合 (%)</p> <table border="1"> <caption>②- 1 英検準 1 級以上の英語力を有する中学校英語担当教師の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値 (%)</th> <th>目指す値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>63.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>64.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>65.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>66.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>67.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>68.0</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>69.0</td> <td>69.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>英語教育実施状況調査における「英語担当教師の英語力の状況」という質問において、「英検準 1 級以上を取得している」と回答した教師の割合。 令和 6 年度には 69% 以上を目指します。(教育指導課)</p>	年度	現状値 (%)	目指す値 (%)	H30	63.0	69.0	R1	64.0	69.0	R2	65.0	69.0	R3	66.0	69.0	R4	67.0	69.0	R5	68.0	69.0	R6	69.0	69.0	<p>②-A 英検 3 級相当以上の英語力を有する中学生の割合 (%)</p> <table border="1"> <caption>②-A 英検 3 級相当以上の英語力を有する中学生の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値 (%)</th> <th>目指す値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>58.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>60.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>61.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>62.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>63.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>64.0</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>65.0</td> <td>65.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>英語教育実施状況調査における「生徒の英語力の状況」という質問において、「英検 3 級相当以上の英語力を有すると思われる生徒」の割合。 令和 6 年度には 65% 以上を目指します。(教育指導課)</p>	年度	現状値 (%)	目指す値 (%)	H30	58.0	65.0	R1	60.0	65.0	R2	61.0	65.0	R3	62.0	65.0	R4	63.0	65.0	R5	64.0	65.0	R6	65.0	65.0											
年度	現状値 (%)	目指す値 (%)																																																										
H30	63.0	69.0																																																										
R1	64.0	69.0																																																										
R2	65.0	69.0																																																										
R3	66.0	69.0																																																										
R4	67.0	69.0																																																										
R5	68.0	69.0																																																										
R6	69.0	69.0																																																										
年度	現状値 (%)	目指す値 (%)																																																										
H30	58.0	65.0																																																										
R1	60.0	65.0																																																										
R2	61.0	65.0																																																										
R3	62.0	65.0																																																										
R4	63.0	65.0																																																										
R5	64.0	65.0																																																										
R6	65.0	65.0																																																										
<p>②- 2 英検準 1 級以上の英語力を有する小学校英語担当教師の割合 (%)</p> <table border="1"> <caption>②- 2 英検準 1 級以上の英語力を有する小学校英語担当教師の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値 (%)</th> <th>目指す値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>2.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>4.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>5.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>6.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>8.0</td> <td>8.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>英語教育実施状況調査における「小学校教師の英語力の状況」という質問において、「英検準 1 級以上を取得している」と回答した教師の割合。 令和 6 年度には 8% 以上を目指します。(教育指導課)</p>	年度	現状値 (%)	目指す値 (%)	H30	2.0	8.0	R1	3.0	8.0	R2	4.0	8.0	R3	5.0	8.0	R4	6.0	8.0	R5	7.0	8.0	R6	8.0	8.0																																				
年度	現状値 (%)	目指す値 (%)																																																										
H30	2.0	8.0																																																										
R1	3.0	8.0																																																										
R2	4.0	8.0																																																										
R3	5.0	8.0																																																										
R4	6.0	8.0																																																										
R5	7.0	8.0																																																										
R6	8.0	8.0																																																										

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
③	<b>夢を与える講演会・学校創造推進事業</b>	教育指導課	 
	<p>自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めていくため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方（経営者、政治家、スポーツ、文化人ほか）を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。</p>		

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>③-1 学校創造推進事業の実施回数 (回)</p>  <p>各小中学校における学校創造推進事業の年間実施回数の合計。 令和6年度には1,600回以上の実施を目指します。(教育指導課)</p>	<p>③-A 自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合 (%)</p>  <p>全国学力・学習状況調査における「自分にはいいところがあると思う」という質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。 令和6年度には85%以上を目指します。(教育指導課)</p>
<p>③-2 生駒こどもチャレンジ補助事業の実施回数 (回)</p>  <p>各小中学校における生駒こどもチャレンジ補助事業の年間実施回数の合計。 子どもたちが、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保するため、令和6年度には8回以上を目指します。(教育指導課)</p>	

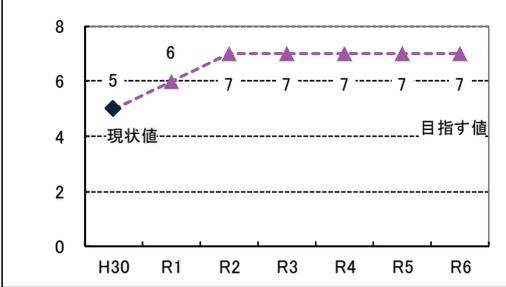
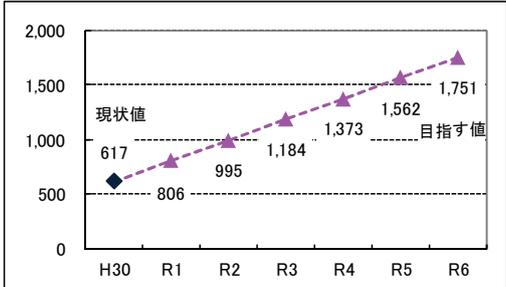
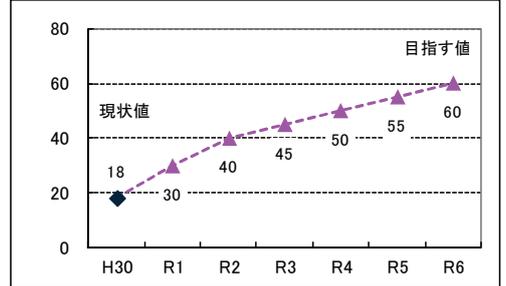
### ■ 現状と課題

子育てに役立つ情報は、NPO や子育てサービス提供事業者など民間が発信している情報も多くあり、子育て世帯は多様な方法で子育て情報を入手していると考えられます。本市でも、広報いこま「いこまち」や市ホームページ、SNS などを利用して、妊娠から出産、子育てに役立つ多様な制度やサービスなどに関する情報発信を行っています。しかしながら、子育て世帯がその情報に容易に辿り着けているとは言えません。

### ■ 施策の方針

そこで、インターネットを活用したメディアやサービスなど多様な情報発信ツールを活用し、情報収集しやすい環境づくりを進めます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>子育て世帯向けの多様な情報発信</b> 子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。	子育て支援総合センター 健康課 いこまの魅力創造課 広報広聴課	 3 すべての人に健康と福祉を

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																
<p>①-1 情報発信・共有するツール数 (種類)</p>  <table border="1"> <caption>①-1 情報発信・共有するツール数 (種類)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>5</td><td>7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>R4</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>R6</td><td>7</td><td>7</td></tr> </tbody> </table> <p>情報を発信・共有する媒体 (ツール) 数。                  情報発信ツールを増やし、幅広く情報が行き渡るように努めるとともに、ツールの利用率や利用者の動向に合わせて、その時々で効率よくターゲットに情報が届くツールを選定していきます。(広報広聴課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	5	7	R1	6	7	R2	7	7	R3	7	7	R4	7	7	R5	7	7	R6	7	7	<p>①-A 子育て関連ページへのアクセス件数 (件)</p>  <table border="1"> <caption>①-A 子育て関連ページへのアクセス件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>35,343</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R1</td><td>35,696</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R2</td><td>36,053</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R3</td><td>36,414</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R4</td><td>36,778</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R5</td><td>37,146</td><td>36,000</td></tr> <tr><td>R6</td><td>37,517</td><td>36,000</td></tr> </tbody> </table> <p>市ホームページにおける子育て関連ページの年間アクセス件数。                  情報を充実させるとともにユーザビリティやページ間の回遊性の向上を図ります。(広報広聴課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	35,343	36,000	R1	35,696	36,000	R2	36,053	36,000	R3	36,414	36,000	R4	36,778	36,000	R5	37,146	36,000	R6	37,517	36,000
年度	現状値	目指す値																																															
H30	5	7																																															
R1	6	7																																															
R2	7	7																																															
R3	7	7																																															
R4	7	7																																															
R5	7	7																																															
R6	7	7																																															
年度	現状値	目指す値																																															
H30	35,343	36,000																																															
R1	35,696	36,000																																															
R2	36,053	36,000																																															
R3	36,414	36,000																																															
R4	36,778	36,000																																															
R5	37,146	36,000																																															
R6	37,517	36,000																																															
<p>①-2 電子版親子手帳利用者数 (人)</p>  <table border="1"> <caption>①-2 電子版親子手帳利用者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>617</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R1</td><td>806</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R2</td><td>995</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R3</td><td>1,184</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R4</td><td>1,373</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1,562</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>R6</td><td>1,751</td><td>1,000</td></tr> </tbody> </table> <p>電子版親子手帳の利用者数。                  子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を発信します。(健康課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	617	1,000	R1	806	1,000	R2	995	1,000	R3	1,184	1,000	R4	1,373	1,000	R5	1,562	1,000	R6	1,751	1,000																									
年度	現状値	目指す値																																															
H30	617	1,000																																															
R1	806	1,000																																															
R2	995	1,000																																															
R3	1,184	1,000																																															
R4	1,373	1,000																																															
R5	1,562	1,000																																															
R6	1,751	1,000																																															
<p>①-3 Twitter 発信数 (件)</p>  <table border="1"> <caption>①-3 Twitter 発信数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>18</td><td>60</td></tr> <tr><td>R1</td><td>30</td><td>60</td></tr> <tr><td>R2</td><td>40</td><td>60</td></tr> <tr><td>R3</td><td>45</td><td>60</td></tr> <tr><td>R4</td><td>50</td><td>60</td></tr> <tr><td>R5</td><td>55</td><td>60</td></tr> <tr><td>R6</td><td>60</td><td>60</td></tr> </tbody> </table> <p>Twitter の各課アカウントでの子育て関連情報 (「#生駒で子育て」を使用した投稿) の年間発信件数。                  SNS 等による情報発信が求められる中、各課から子育て関係情報を発信する際に「#生駒で子育て」の活用を促すとともに、積極的な情報発信に努めます。(子育て支援総合センター)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	18	60	R1	30	60	R2	40	60	R3	45	60	R4	50	60	R5	55	60	R6	60	60																									
年度	現状値	目指す値																																															
H30	18	60																																															
R1	30	60																																															
R2	40	60																																															
R3	45	60																																															
R4	50	60																																															
R5	55	60																																															
R6	60	60																																															

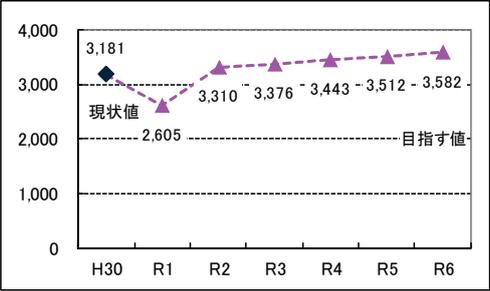
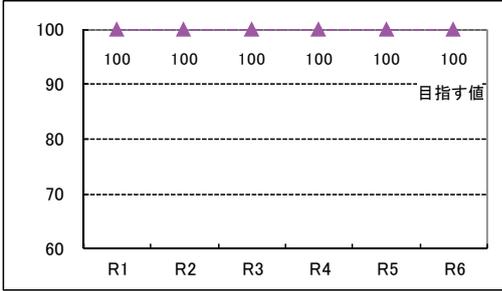
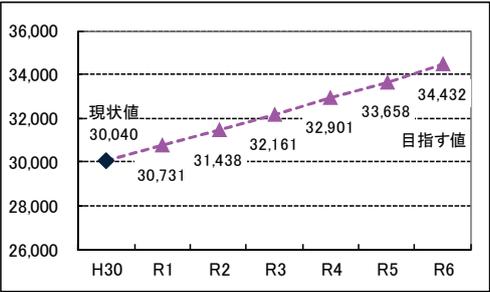
## ■ 現状と課題

近年、特に母親が孤独な子育てによる悩みや不安を抱え込み、育児放棄や虐待等が社会問題化しています。また、市外からの転入が多い生駒では、地域コミュニティが希薄化しやすく、保護者同士のネットワークが形成されにくい懸念があります。

## ■ 施策の方針

そのため、子育て世帯が気軽に子育てに関する悩み等について話し合える場や機会をつくることで、子育て世帯同士の交流を促し、子育て世帯の精神的負担の軽減に繋がります。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>子育て世帯同士の学び・交流支援</b> 子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。	子育て支援総合センター こども課	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 ひろば事業参加者数 (人)</p>  <p>地域子育て支援拠点等で実施するひろば事業の年間延べ参加者数。 子育てや日々の生活について語り合う場としてひろば事業の参加者を拡大することで、同じような悩みに共感したり、保護者同士の交流を推進します。(子育て支援総合センター) ※ R1 実績値は「サンデーひろば」の場所変更により利用者数が減少する見込み。</p>	<p>①-A ひろば事業参加者満足度 (%)</p>  <p>交流を目的とするひろば事業の参加者に対するアンケートによる、当該事業の満足度（令和元年度からアンケート実施）。事業参加者の満足度の向上を図ることで、保護者同士の交流を推進し、子育て世帯の孤立化を防ぎます。(子育て支援総合センター)</p>
<p>①-2 市直営拠点（みっきランド・はばたきみっき）利用者数 (人)</p>  <p>子育て中の親子が好きな時に集まり、遊んだり、悩みを語ったりできる場所である地域子育て支援拠点のうち市直営拠点（みっきランド・はばたきみっき）の年間延べ利用者数。 市直営拠点の利用者の増加を図り、子育て世帯の孤立化を防ぎます。(子育て支援総合センター)</p>	

## ■現状と課題

近年、子どもが自宅近くで犯罪や事故に巻き込まれるケースが多く見受けられます。その対応としては、コミュニティ全体で地域の子どもたちを見守るような取組が有効であると考えられますが、市外からの転入が多い生駒では、地域コミュニティが希薄化しやすく、そのようなコミュニティ活動に繋がりにくい懸念があります。

## ■施策の方針

そのため、保護者に加えて学校・団体・地域等が地域の子育てに積極的に協力し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守る体制づくりを支援し、地域での見守り体制の構築により、児童虐待防止など、子どもの人権や安全を守ります。

■具体的な取組		■担当課	■SDGs
①	<b>地域・行政・周囲のひとによる子育ての見守り強化</b>	子育て支援総合センター 健康課	 
②	<b>ファミリー・サポート事業の利用促進</b>	子育て支援総合センター	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																								
<p>①-1 新生児・乳児訪問の実施率 (%)【再掲】</p> <table border="1"> <caption>①-1 新生児・乳児訪問の実施率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>98.7</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>99.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児訪問やこんにちは赤ちゃん事業など、乳児期に行った保健師・助産師訪問の実施率。出産後の不安を抱えやすい時期に、専門職による訪問を行うことで、育児に関する知識の普及や不安の解消を図り、母親の心身の健康状態の安定を図ります。(健康課)</p>	年度	実施率 (%)	H30	98.7	R1	99.1	R2	99.1	R3	99.1	R4	99.1	R5	99.1	R6	99.1	<p>①-A 子育て支援サービスの満足度 (点)</p> <table border="1"> <caption>①-A 子育て支援サービスの満足度 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>58.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>市民満足度調査における子育て支援サービスに対する満足度で、満足=100点、やや満足=75点、普通=50点、やや不満=25点、不満=0点として得点化したもの。子育て世帯の孤立化防止の取組を実施し、令和6年度には58点を目指します。(子育て支援総合センター)</p>	年度	満足度 (点)	H29	52.0	H30	52.0	R1	52.0	R2	54.0	R3	54.0	R4	56.0	R5	56.0	R6	58.0						
年度	実施率 (%)																																								
H30	98.7																																								
R1	99.1																																								
R2	99.1																																								
R3	99.1																																								
R4	99.1																																								
R5	99.1																																								
R6	99.1																																								
年度	満足度 (点)																																								
H29	52.0																																								
H30	52.0																																								
R1	52.0																																								
R2	54.0																																								
R3	54.0																																								
R4	56.0																																								
R5	56.0																																								
R6	58.0																																								
<p>①-2 C A P 講習会の開催回数 (回)</p> <table border="1"> <caption>①-2 C A P 講習会の開催回数 (回)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数 (回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table> <p>様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラム「C A P 講習会」の開催回数。(累計)子ども自身が自分自身を大切な存在であることに気づき、「自分は大切な人」という意識を育むことで暴力防止や暴力から身を守ることを学ぶ機会を増やします。(子育て支援総合センター)</p>	年度	開催回数 (回)	H30	15	R1	22	R2	27	R3	32	R4	37	R5	42	R6	47																									
年度	開催回数 (回)																																								
H30	15																																								
R1	22																																								
R2	27																																								
R3	32																																								
R4	37																																								
R5	42																																								
R6	47																																								
<p>②-1 ファミリー・サポート事業の会員数 (人)</p> <table border="1"> <caption>②-1 ファミリー・サポート事業の会員数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>依頼会員 (人)</th> <th>援助会員 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>606</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>606</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>618</td> <td>179</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>630</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>643</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>656</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>669</td> <td>193</td> </tr> </tbody> </table> <p>ファミリー・サポート事業の依頼会員及び援助会員の人数(両方に登録している会員はそれぞれでカウント)。事業の周知を図るとともに、依頼会員に相互扶助を働きかけることにより援助会員の増加を図ります。(子育て支援総合センター)</p>	年度	依頼会員 (人)	援助会員 (人)	H30	606	175	R1	606	175	R2	618	179	R3	630	182	R4	643	186	R5	656	189	R6	669	193	<p>②-A ファミリー・サポートの利用件数 (件)</p> <table border="1"> <caption>②-A ファミリー・サポートの利用件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>2,113</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>2,113</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>2,155</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>2,198</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>2,242</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>2,287</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>2,333</td> </tr> </tbody> </table> <p>ファミリー・サポート事業の年間利用件数。地域における育児の相互援助活動として、多様化する子育て支援のニーズに対応します。(子育て支援総合センター)</p>	年度	利用件数 (件)	H30	2,113	R1	2,113	R2	2,155	R3	2,198	R4	2,242	R5	2,287	R6	2,333
年度	依頼会員 (人)	援助会員 (人)																																							
H30	606	175																																							
R1	606	175																																							
R2	618	179																																							
R3	630	182																																							
R4	643	186																																							
R5	656	189																																							
R6	669	193																																							
年度	利用件数 (件)																																								
H30	2,113																																								
R1	2,113																																								
R2	2,155																																								
R3	2,198																																								
R4	2,242																																								
R5	2,287																																								
R6	2,333																																								

## ■ 現状と課題

毎年、各地で起こる様々な自然災害を受け、防災への意識の高まりや、子どもの犯罪被害の増加による防犯への意識の高まりに配慮したまちづくりが、社会的に求められています。

## ■ 施策の方針

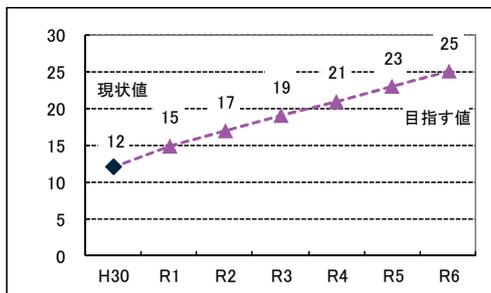
そのため、大規模災害から市民の生命・財産を守り、被害を最小限にとどめるため、あらかじめ災害に対するあらゆる備えを充実し、たとえ災害が発生しても被災からいち早く立ち直ることができるよう、住民の防災力を強化し、防災体制を整えます。

また、地域の防災や防犯、交通事故被害防止に配慮したまちづくりを通じて、安全・安心な子育て環境の整備を図ること、子育て世帯が安心して生活できる地域をつくれます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>指定避難所への防災備蓄</b>	災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。	防災安全課  
②	<b>自主防災会の活動支援・促進</b>	自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協力体制の強化を促します。学区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。	防災安全課   

■ K P I (アウトプット指標)

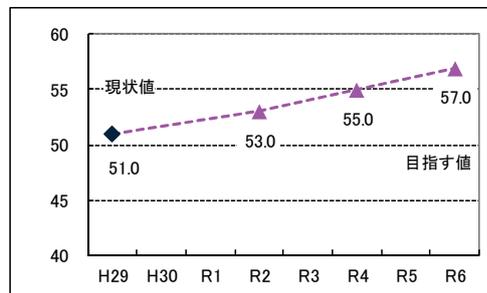
①-1 災害用備蓄倉庫設置箇所数 (箇所)



避難所における災害用備蓄倉庫の設置箇所数。(累計)  
計画的に備蓄倉庫を整備することにより、避難所の物品の充実を図ります。(防災安全課)

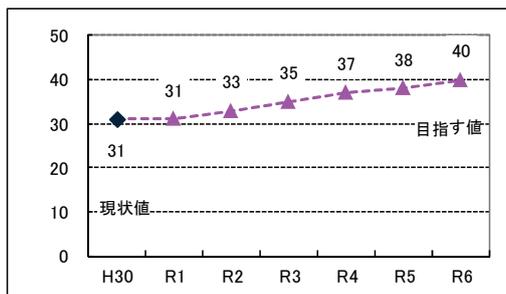
■ K P I (アウトカム指標)

①-A 消防署・避難所などの防災施設の満足度 (点)



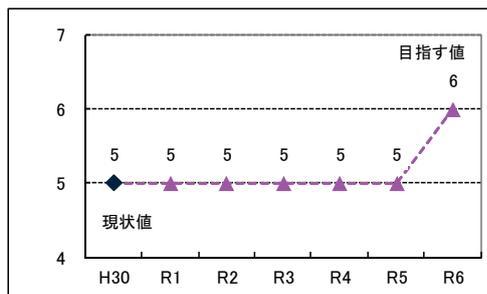
市民満足度調査における消防署・避難所などの防災施設に対する満足度で、満足 = 100 点、やや満足 = 75 点、普通 = 50 点、やや不満 = 25 点、不満 = 0 点として得点化したもの。避難所物品等を充実させるなど必要な取組を実施し、令和 6 年度に 57 点を目指します。(防災安全課)

②-1 自主防災会活動推進補助金利用団体数 (団体)



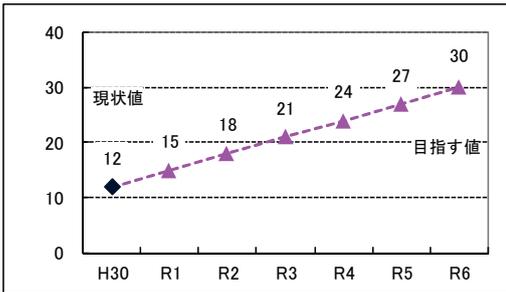
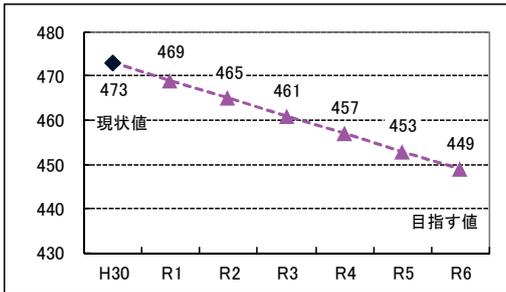
自主防災会活動推進補助金の年間利用団体数。  
防災会の活動を支援することにより、活動を促進し、地域の防災力を強化します。(防災安全課)

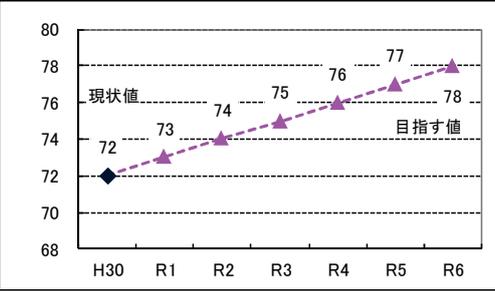
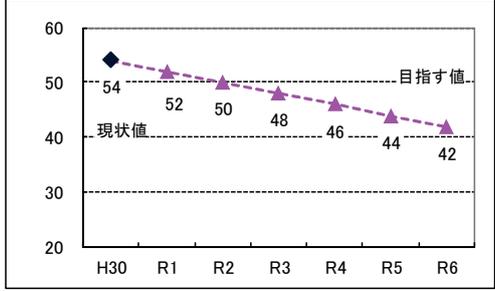
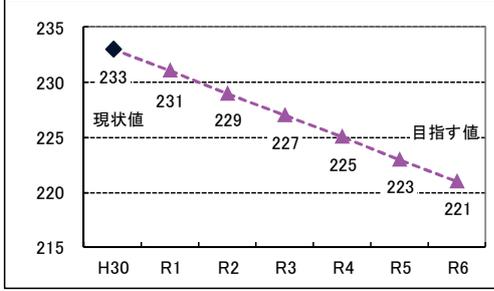
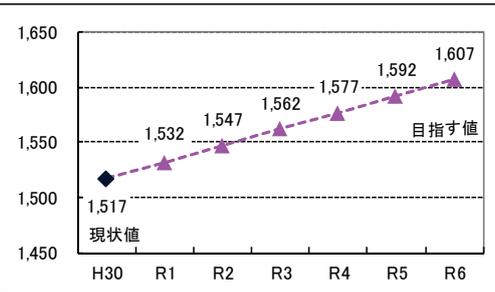
②-A 小学校区単位での防災訓練の実施回数 (回)



小学校区単位等で行う防災訓練の年間実施回数。  
大規模災害時に同じ避難所を利用する地域が合同で訓練を行うことで、災害発生時の共助の体制を整えます。(防災安全課)

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
③	<p><b>自主防犯活動の支援・促進</b></p> <p>犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。</p>	防災安全課	
④	<p><b>通学路等安全対策</b></p> <p>子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を実施し、安全に安心して通学等ができる環境整備を進めます。</p> <p>また、市民の協力による「子ども110番の家」の設置を推進し、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。</p>	教育総務課 こども課 防災安全課 事業計画課 土木課 管理課 障がい福祉課	 

■ KPI（アウトプット指標）	■ KPI（アウトカム指標）
<p>③-1 防犯カメラ設置自治会数（自治会）</p>  <p>防犯カメラの設置に対して、市が補助金を交付した自治会の数。（累計） 防犯カメラの設置を促進することにより、犯罪の起こりにくいまちを目指します。（防災安全課）</p>	<p>③-A 刑法犯罪認知件数（件）</p>  <p>強盗や傷害、詐欺等の刑法犯罪の認知件数（暦年）。 防犯に関する啓発により、毎年、前年比1%減となることを目指します。（防災安全課）</p>

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>③-2 防犯活動用品貸出団体数 (団体)</p>  <p>市が防犯活動用品を貸与した団体数。(累計) 各種団体の防犯活動を支援することにより、地域における自主防犯を推進します。(防災安全課)</p>	
<p>④-1 通学路の対策必要箇所数 (箇所)</p>  <p>小学校区単位で行う通学路点検において、対策を必要とする箇所数。 対策必要箇所については、原則当該年度又は翌年度に対策を行っていくことで危険箇所の減少を目指します。(教育総務課ほか)</p>	<p>④-A 交通事故(人身)の発生件数(件)</p>  <p>人身事故の年間の発生件数(暦年)。 交通安全に関する啓発により、毎年、前年比1%減となることを目指します。(防災安全課) ※ H30実績値が確定したことに伴い、第6次総合計画第1期基本計画の指標を下方修正。</p>
<p>④-2 「子ども110番の家」設置件数(件)</p>  <p>「子ども110番の家」の設置箇所数。 設置を推進することにより、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。(防災安全課)</p>	

## 基本目標2

## 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち

### <目指す姿>

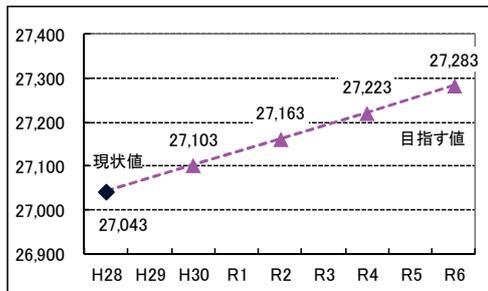
- ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するなど家族の近くで希望の仕事ができている。

### <数値目標>

■目標指標 2①	■現状値 (H28)	■目標値 (R6)
市内従業者数	27,043 人	27,283 人
■目標指標 2②	■現状値 (H30)	■目標値 (R6)
法人設立届出数	120 件	150 件

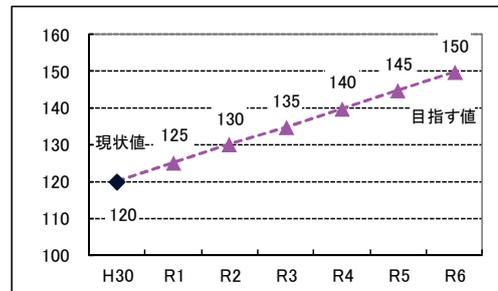
#### ■目標指標のグラフ

2① 市内従業者数 (人)



経済センサスにおける、市内事業所での従業者数（公務を除く）。  
企業の雇用支援だけでなく、人材の掘り起こし、ワークライフバランスの向上などに取り組むことにより、令和6年度には27,283人を目標します。

2② 法人設立届出数 (件)



市課税課に提出された法人設立申告書の年間届出件数。  
様々な起業支援に取り組むことにより、令和6年度には150件を目標します。

## <施策に関する基本的方向>

### 2-1 職場での多様な働き方を広げる

女性が出産を経ても継続的かつ柔軟に働くことができるとともに、男性も積極的に子育てや家事に参画するなど、男女それぞれが、仕事と家庭の良好なバランスをとりながら働けるような職場環境づくりを目指します。

### 2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる

市内での雇用を生み出す事業活動を拡大するための支援や、新たな企業誘致により、市内で働きやすい雇用を創出するとともに、企業に雇用される枠組みにとらわれずに、多様な人的ネットワークを活かしながら、自分のスキルを發揮できる新たなビジネスを自ら立ち上げられる環境づくりを目指します。

### 2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる

子育てや介護といった公益性の高い事業や、地元農産品の地域内消費の促進など、市内での経済循環を生み出す事業活動の拡大を支援し、そのサービス提供に必要な専門知識や技能、経営ノウハウなどを身につける人材の育成を目指すとともに、既に資格や技能を持っている人材を掘り起こします。

## <施策に関連するSDGs>



## ■ 現状と課題

共働き世帯が従来より増加する一方で、育児と両立できる仕事が見つからないことを理由に、依然として就業をあきらめる女性が多いと考えられ、男女とも仕事と育児の両立が求められています。

また、近年では、健康寿命の延伸により定年退職後も働く意志を持つ方が増えています。

## ■ 施策の方針

そのため、子育てと仕事の両立の支援として、市内事業所におけるワーク・ライフ・バランスの積極的普及や多様な働き方の推進に努め、男女ともに子育ての状況に応じた就業を支援し、子育て中の女性の就業を後押しするとともに、男性の積極的な子育て参画にも繋がります。

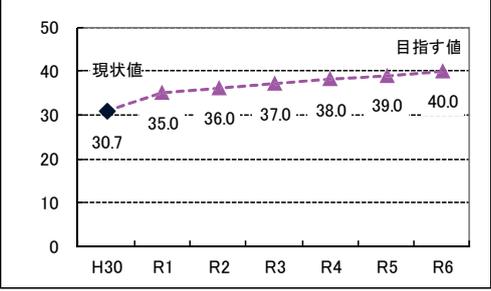
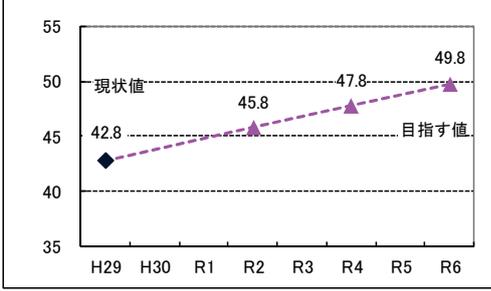
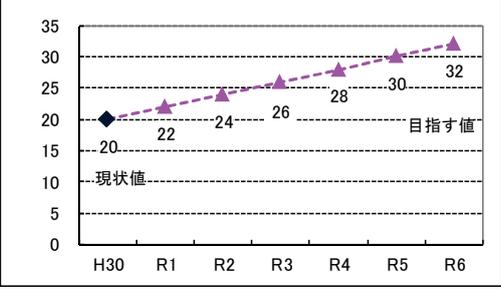
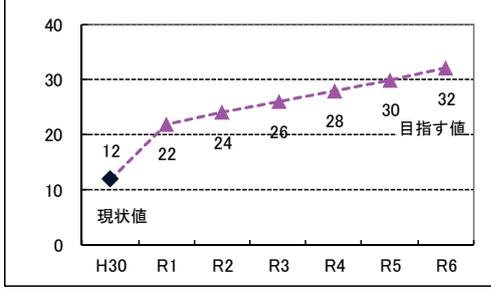
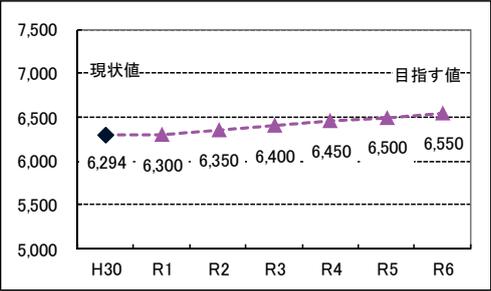
また、高齢者の就労ニーズを踏まえ、高齢者が健康で意欲と能力がある限り年齢に関係なく、生涯現役で働き続けることができる社会の実現に向け、高齢者向けの就労の取組など、多様な人材への就労支援を進めます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>ワーク・ライフ・バランスの普及啓発</b> 仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	男女共同参画 プラザ	 5 ジェンダー平等を実現しよう  8 働きがいも経済成長も  17 パートナシップで目標を達成しよう
②	<b>テレワーク等の推進</b> ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組みます。	商工観光課	 5 ジェンダー平等を実現しよう  8 働きがいも経済成長も

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 多様な働き方に関するセミナー等開催回数 (回)</p> <p>市が開催する多様な働き方に関するセミナー等の開催回数。(累計) 市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスの意識啓発や多様な働き方を推進します。(男女共同参画プラザ)</p>	<p>①-A 男性の平日の育児家事労働時間 「全くしない」人の割合 (%)</p> <p>市民満足度調査における、平日の育児家事労働時間の質問について、「全くしない」と回答した男性の割合。 男性の家事育児への参加を促し、令和6年度に0%を目指します。(男女共同参画プラザ) ※ H30実績値は「家事労働時間「全くしない」人の割合」の参考値。</p>
	<p>①-B 市内のイクボス宣言事業者数 (社)</p> <p>イクボス宣言をした市内事業所数。(累計) 市内の事業者に安心安全で快適な職場環境の整備を促し、従業員のいきいきとした働き方の実現を目指します。(男女共同参画プラザ)</p>
<p>②-1 「働く」等をテーマにしたイベント開催回数 (回)</p> <p>テレワーク&amp;インキュベーションセンターイコマドで開催する「働く」等をテーマにしたイベントの年間開催回数。 セミナー等のイベントを実施し、テレワークをはじめとした多様な働き方の啓発を図ります。(商工観光課)</p>	<p>②-A イコマドにおけるテレワーク利用件数 (件)</p> <p>テレワーク&amp;インキュベーションセンターイコマドにおけるテレワーク年間利用件数。 イコマドを中心として、市内でのテレワーク従業者数の増加を目指します。(商工観光課)</p>

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
③	<p><b>女性の活躍推進</b></p> <p>男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることができる社会を目指します。</p> <p>また、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。</p>	<p>男女共同参画 プラザ 人事課</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>
④	<p><b>就業意欲がある人の支援</b></p> <p>市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組むため、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。</p>	<p>商工観光課</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>

■ K P I（アウトプット指標）	■ K P I（アウトカム指標）																																		
<p>③- 1 男女共同参画啓発講座等の開催回数（回）</p> <table border="1"> <caption>③- 1 男女共同参画啓発講座等の開催回数（回）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table> <p>市が開催する男女共同参画の講座等の開催回数。（累計）男女共同参画の大切さを知ってもらうため、啓発の機会を増やします。（男女共同参画プラザ）</p>	年度	開催回数	H30	85	R1	100	R2	120	R3	140	R4	160	R5	180	R6	200	<p>③-A 女性活躍推進に関する市民実感度（点）</p> <table border="1"> <caption>③-A 女性活躍推進に関する市民実感度（点）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実感度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>57.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>59.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>61.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>市民満足度調査における女性活躍推進に関する施策の進捗実感度を得点化したもの。女性活躍のための基盤整備を進め、令和6年度には61点を目指します。（男女共同参画プラザ） ※ H29 実績値は第5次総合計画後期基本計画に掲げる「4年後のまち」の進捗実感度</p>	年度	実感度	H29	55.0	H30	57.0	R1	59.0	R2	61.0	R3	61.0	R4	61.0	R5	61.0	R6	61.0
年度	開催回数																																		
H30	85																																		
R1	100																																		
R2	120																																		
R3	140																																		
R4	160																																		
R5	180																																		
R6	200																																		
年度	実感度																																		
H29	55.0																																		
H30	57.0																																		
R1	59.0																																		
R2	61.0																																		
R3	61.0																																		
R4	61.0																																		
R5	61.0																																		
R6	61.0																																		

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>③-2 市の附属機関等の女性委員の割合 (%)</p>  <p>市の附属機関等の委員総数に対する女性委員の割合。生駒市男女共同参画行動計画に基づく目標（令和6年度40%）を目指し、審議会等へ女性委員の参加を促進します。（男女共同参画プラザ）</p>	<p>③-B 市調査による女性の就業の割合 (%)</p>  <p>市民満足度調査における女性の就業者の割合。女性活躍のための基盤整備を進め、令和6年度には49.8%を目指します。（男女共同参画プラザ）</p>
<p>④-1 合同就職面接会の参加企業数 (社)</p>  <p>市・ハローワーク共催の合同就職面接会への年間延べ参加企業数。市内企業の雇用確保を目的に合同面接会へ参加する企業件数の増加を目指します。（商工観光課）</p>	<p>④-A 合同就職面接会での新規雇用者数 (人)</p>  <p>市・ハローワーク共催の合同就職面接会での年間新規就業者数。求人側と求職側に対して支援を行い、1企業1人の新規就業者を目指します。（商工観光課）</p>
<p>④-2 ふるさとハローワークへの相談件数 (件)</p>  <p>ふるさとハローワークへの年間相談延べ件数。市内企業の雇用支援と併せて求職希望者へ就労支援の情報発信等を継続的に実施することで、ハローワークへの相談件数の増加を目指します。（商工観光課）</p>	

## ■ 現状と課題

大阪のベッドタウンとして発展してきた本市では、市外（特に大阪府）へ働きに出る人が多くなっていますが、子育て中の世帯にとって市外に働きに出ることは緊急時の対応等が難しく不安を抱えやすいことが懸念されます。

## ■ 施策の方針

そのため、新たな企業の誘致や市内既存事業所の事業拡大に向けた支援に取り組み、新しい雇用先を確保するとともに、市内で働きたい子育て世帯をはじめ働き盛り世代の就業に繋がります。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>立地の推進</b> 市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある操業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	商工観光課	  
②	<b>既存企業への支援</b> これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。	商工観光課	  

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																
<p>①-1 展示会での誘致 PR 件数 (件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>現状値</th><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr> </table> <p>展示会における企業誘致の年間 PR 件数。 奈良県企業立地推進課や関西文化学術研究都市推進機構 など企業立地関連機関と連携し、誘致につながる展示会等へ 出展することで広域的に生駒市を PR する。(商工観光課)</p>	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	現状値	5	5	5	5	5	5	5	目指す値	5	5	5	5	5	5	5	<p>①-A 企業立地件数 (件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>現状値</th><td>17</td><td>20</td><td>22</td><td>24</td><td>26</td><td>28</td><td>30</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td>17</td><td>20</td><td>22</td><td>24</td><td>26</td><td>28</td><td>30</td></tr> </table> <p>企業誘致施策の成果を表す指標である企業立地促進条例に 基づく認定事業所数。(累計) 令和 6 年度に累計 30 件の企業誘致を目指します。(商工観 光課)</p>	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	現状値	17	20	22	24	26	28	30	目指す値	17	20	22	24	26	28	30
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																										
現状値	5	5	5	5	5	5	5																																										
目指す値	5	5	5	5	5	5	5																																										
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																										
現状値	17	20	22	24	26	28	30																																										
目指す値	17	20	22	24	26	28	30																																										
	<p>①-B 立地企業の新規雇用者数 (人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>現状値</th><td>48</td><td>52</td><td>56</td><td>60</td><td>64</td><td>68</td><td>72</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td>48</td><td>52</td><td>56</td><td>60</td><td>64</td><td>68</td><td>72</td></tr> </table> <p>企業立地促進条例に基づく認定事業所の新規雇用者数。 (累計) 企業誘致施策の成果を表す指標である認定事業所 1 社あたり 2 人の市内新規雇用者数を目標とします。(商工観光課)</p>	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	現状値	48	52	56	60	64	68	72	目指す値	48	52	56	60	64	68	72																								
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																										
現状値	48	52	56	60	64	68	72																																										
目指す値	48	52	56	60	64	68	72																																										
<p>②-1 展示会出展支援件数 (件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>現状値</th><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> </table> <p>市内企業の新たな販路拡大を目的とした展示会への出展支援 の年間件数。 展示会へ出展する事業所数の増加を目指します。(商工観光 課)</p>	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	現状値	16	17	18	19	20	21	22	目指す値	16	17	18	19	20	21	22	<p>②-A 合同就職面接会での新規雇用者数 (人)【再掲】</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>現状値</th><td>12</td><td>22</td><td>24</td><td>26</td><td>28</td><td>30</td><td>32</td></tr> <tr><th>目指す値</th><td>12</td><td>22</td><td>24</td><td>26</td><td>28</td><td>30</td><td>32</td></tr> </table> <p>市・ハローワーク共催の合同就職面接会での年間新規就業者 数。 求人側と求職側に対して支援を行い、1 企業 1 人の新規就業 者を目指します。(商工観光課)</p>	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	現状値	12	22	24	26	28	30	32	目指す値	12	22	24	26	28	30	32
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																										
現状値	16	17	18	19	20	21	22																																										
目指す値	16	17	18	19	20	21	22																																										
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																										
現状値	12	22	24	26	28	30	32																																										
目指す値	12	22	24	26	28	30	32																																										

## ■ 現状と課題

市内には、関西圏を中心に多くの働き盛り世代が継続的に流入してきており、多様なノウハウを持った人が集まっているものと考えられます。家庭と両立しながらそのノウハウを活用していくことが、市内での活発な経済活動に繋がるものと考えられます。

## ■ 施策の方針

そのため、老若男女を問わず、仕事と家庭の両立や、自己実現のために自ら仕事を起こすような積極的な人に向けて、今後の活動を後押ししてくれるような人材や知識に触れ、新しい活動の展開の可能性を考えるような場を提供するとともに、起業や経営に関するノウハウの提供や支援スペースの提供など起業家の支援体制を整えることで、企業への就職にとどまらない積極的なビジネス展開に繋がります。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<p><b>起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成</b></p> <p>起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。</p> <p>また、早い段階から多様な働き方に対する意識を醸成するため、小中学生が起業家や企業で活躍する人と触れ合い、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナー等を開催します。</p>	商工観光課 生涯学習課	  
②	<p><b>起業家を育成支援する体制づくり及び情報発信</b></p> <p>起業希望者や起業家もない人を支援するため、ベルテラスいこまのイベントや起業支援スペースから芽生えた起業意欲のある方に対し、店舗経営のノウハウの継承・指導やチャレンジする機会を設けるなど包括的な起業家の育成支援を実施します。</p> <p>また、そうした支援を効果的に行うための情報発信や起業支援セミナーの開催などを行います。</p>	商工観光課	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 交流会の参加者数 (人)</p> <p>生駒商工会議所が開催する起業支援セミナーの交流会参加者数。(累計) 創業支援事業計画に基づき実施する起業支援セミナーの参加者のうち、半数以上の交流会への参加を目指し、起業希望者・起業家間や起業支援者との横の連携を強化します。(商工観光課)</p>	<p>①-A イコマドにおけるインキュベーション、ワーキング利用者数 (人)</p> <p>テレワーク&amp;インキュベーションセンターイコマドにおけるインキュベーション、ワーキングの年間利用者数。 起業家に有意義なイベントの実施などインキュベーションとワーキング機能を持った施設の利用促進を通じて、起業家や起業希望者を支援します。(商工観光課)</p>
<p>①-2 いこまっこチャレンジ教室の参加人数 (人)</p> <p>いこまっこチャレンジ教室の年間延べ参加人数。 子どもたちが「自立心」、「生き抜く力」を身につけるため、各種団体等と連携し、様々な学びと体験の場を提供します。(生涯学習課)</p>	
<p>②-1 起業支援セミナー開催回数 (回)</p> <p>生駒商工会議所、奈良県よろず支援拠点で開催する起業支援セミナーの開催回数。(累計) 創業支援事業計画に基づき、連携支援機関で実施する起業支援セミナーを継続実施することで起業希望者を支援します。(商工観光課)</p>	<p>②-A 奈良県よろず支援拠点における起業に関する相談件数 (件)</p> <p>市の連携支援機関である奈良県よろず支援拠点での起業に関する年間延べ相談件数。 創業支援事業計画に基づき、連携支援機関の相談体制を充実させることで起業希望者を支援します。(商工観光課)</p>

## ■ 現状と課題

女性の活躍推進や幼児教育・保育無償化に伴い、市内の保育需要は今後さらに増加することが予想され、子育て分野の人材不足が懸念されています。市内には保育士資格を有しているながら就業していない人材が潜在しており、こうした地域人材を活用することで、保育需要に対応していくことが期待されています。

## ■ 施策の方針

そのため、相談会を通じて市内に潜在する保育士の発掘を進め、関係機関と連携を図りながら柔軟な働き方や待遇改善を進めることで、市内事業者での雇用を促進します。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>保育士の確保【再掲】</b> 増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	こども課	  

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																
<p>①-1 「資格をいかそう！相談会」参加者数（人）【再掲】</p> <table border="1"> <caption>①-1 「資格をいかそう！相談会」参加者数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p>潜在保育士発掘のための「資格をいかそう！相談会」の年間延べ参加者数。                  保育士・幼稚園教諭の資格を有しながら、就業していない方の就業不安に応えるため、自分に合った働き方を紹介し、雇用に結びつける相談会を実施します。（こども課）</p>	年度	参加者数（人）	H30	32	R1	34	R2	36	R3	38	R4	40	R5	42	R6	44	<p>①-A 「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数（人）【再掲】</p> <table border="1"> <caption>①-A 「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>相談会参加者のうち市内保育所・こども園・幼稚園での雇用者数。（累計）                  相談会以降のマッチングや職場体験を通して、雇用者数の増加を目指します。（こども課）</p>	年度	人数（人）	H30	7	R1	8	R2	9	R3	10	R4	11	R5	12	R6	13
年度	参加者数（人）																																
H30	32																																
R1	34																																
R2	36																																
R3	38																																
R4	40																																
R5	42																																
R6	44																																
年度	人数（人）																																
H30	7																																
R1	8																																
R2	9																																
R3	10																																
R4	11																																
R5	12																																
R6	13																																

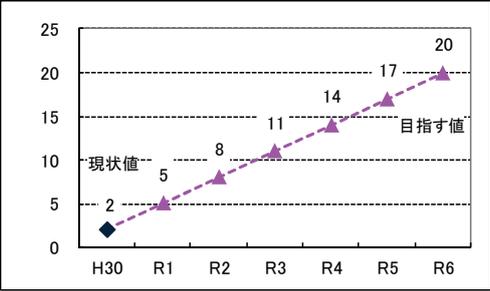
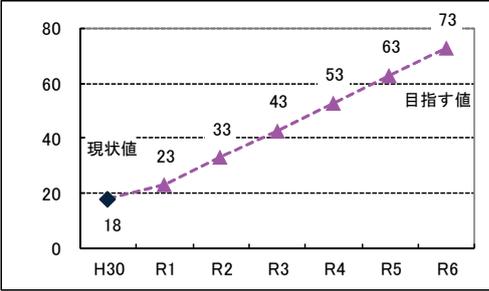
## ■ 現状と課題

高齢化の進行に伴い、市内での介護に関する需要は、今後より一層高まるものと予想されています。また、市民満足度調査の結果によると高齢者ほど定住意向が高くなる傾向があります。こういった状況から、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境や体制の充実が求められています。

## ■ 施策の方針

そのため、介護関係の資格取得を支援することにより、市内で身近に働ける機会を提供し、人材が不足している介護分野の職場での就労を促進します。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>介護関係資格取得費の支援</b> 市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	介護保険課	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 介護関係資格取得を促すための広報回数 (回)</p>  <p>介護関係資格の取得を促すために広報を行った回数。(累計)                      広報紙の掲載やホームページの掲載により広く制度の周知を図ります。(介護保険課)</p>	<p>①-A 介護関係資格取得支援を受けた新規就業者数 (人)</p>  <p>介護職員初任者研修受講料助成を受けて新たに就業した人数。(累計)                      奈良県の介護人材確保対策総合支援補助金を活用し、介護の基礎的な資格である「介護職員初任者研修」の受講に要する費用を助成し、介護人材の確保に努めます。(介護保険課)</p>

## ■ 現状と課題

遊休農地の増加や後継者問題など、市内の農業を取り巻く状況はより一層厳しくなっています。今後は、市内での就農を促し、そこで生産された農産物を活用した取組を進めることで、市内の農業を守り、農業者、市民及び市が一体となって、生駒らしい稼げる農業を推進していく必要があります。

## ■ 施策の方針

そのため、プロ農業者の確保・育成を図るとともに、食の安全・安心の推進や、地産地消の拡大、農産品を活かしたブランド化など農産物の付加価値を高めることで、農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>プロ農業者の確保と育成</b> 農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援制度を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。 また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	農業委員会事務局 農林課	  
②	<b>農作物の販売支援</b> 農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小商い農業の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組み、プロ農業者だけでなく小商い農業者の販売促進につなげます。	農林課	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																
<p>①-1 農地見学会参加者数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-1 農地見学会参加者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>4 (現状値)</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>10 (目指す値)</td> </tr> </tbody> </table> <p>市が実施する農地見学会の年間参加者数。新規就農希望者に対して農地見学会を実施し、農業の担い手の発掘を図ります。(農業委員会事務局・農林課)</p>	年度	参加者数 (人)	H30	4 (現状値)	R1	5	R2	6	R3	7	R4	8	R5	9	R6	10 (目指す値)	<p>①-A 青年新規就農者数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-A 青年新規就農者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新規就農者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>13 (現状値)</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>19 (目指す値)</td> </tr> </tbody> </table> <p>青年の新規就農者数。(累計) 農地の有効活用を図り、地産地消を進めるため、未来の担い手である青年新規就農者の発掘と定着を進めます。(農業委員会事務局・農林課)</p>	年度	新規就農者数 (人)	H30	13 (現状値)	R1	14	R2	15	R3	16	R4	17	R5	18	R6	19 (目指す値)
年度	参加者数 (人)																																
H30	4 (現状値)																																
R1	5																																
R2	6																																
R3	7																																
R4	8																																
R5	9																																
R6	10 (目指す値)																																
年度	新規就農者数 (人)																																
H30	13 (現状値)																																
R1	14																																
R2	15																																
R3	16																																
R4	17																																
R5	18																																
R6	19 (目指す値)																																
<p>②-1 移動販売自治会数 (件)</p> <table border="1"> <caption>②-1 移動販売自治会数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自治会数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>0 (現状値)</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>15 (目指す値)</td> </tr> </tbody> </table> <p>農作物の移動販売を行った自治会数。(累計) 地産地消を進めるため、地場野菜等の魅力を一人でも多くの市民に知ってもらう機会とともに、地域コミュニティ形成の場で移動販売を行うことで、さらなる良好なコミュニティの形成・発展を図ります。(農林課)</p>	年度	自治会数 (件)	H30	0 (現状値)	R1	5	R2	7	R3	9	R4	11	R5	13	R6	15 (目指す値)	<p>②-A 地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数 (件)</p> <table border="1"> <caption>②-A 地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数 (件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>13 (現状値)</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>19 (目指す値)</td> </tr> </tbody> </table> <p>地場野菜等について、地元飲食店が購入・使用、事業者(スーパー等)が販売をしている件数。(累計) 地産地消を進めるため、消費者による地場野菜等の飲食・購入を進めます。(農林課)</p>	年度	件数 (件)	H30	13 (現状値)	R1	14	R2	15	R3	16	R4	17	R5	18	R6	19 (目指す値)
年度	自治会数 (件)																																
H30	0 (現状値)																																
R1	5																																
R2	7																																
R3	9																																
R4	11																																
R5	13																																
R6	15 (目指す値)																																
年度	件数 (件)																																
H30	13 (現状値)																																
R1	14																																
R2	15																																
R3	16																																
R4	17																																
R5	18																																
R6	19 (目指す値)																																

## 基本目標 3

## 働き盛り世代が住みたいまち

### <目指す姿>

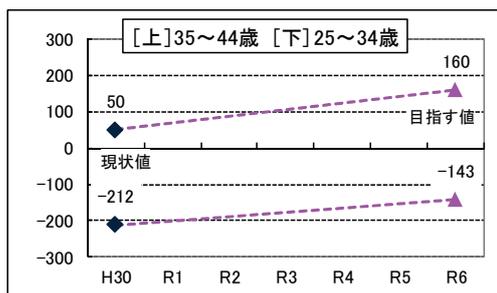
- 多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。

### <数値目標>

■目標指標 3 ①	■現状値 (H30)	■目標値 (R6)
働き盛り世代 (25~34 歳) の純移動数 (転入 - 転出)	- 212 人	- 143 人
働き盛り世代 (35~44 歳) の純移動数 (転入 - 転出)	+ 50 人	+ 160 人
■目標指標 3 ②	■現状値 (R1)	■目標値 (R6)
働き盛り世代の定住意向「ずっと住み続けたい」の割合	45.5%	50.5%

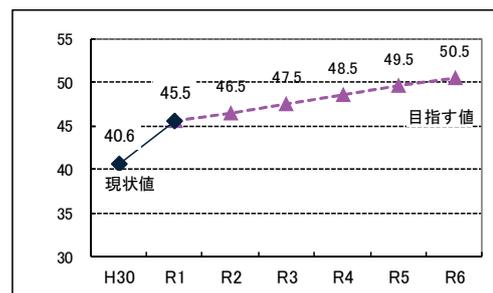
#### ■目標指標のグラフ

3 ① 働き盛り世代の純移動数



住民基本台帳人口移動報告における、1月から12月までの働き盛り世代の純移動数（転入 - 転出）。働き盛り世代が移り住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを進め、25~34歳の社会減少数を緩和するとともに、35~44歳の社会増加数の伸長を目指します。

3 ② 働き盛り世代の定住意向「ずっと住み続けたい」の割合



市民満足度調査における、定住意向で「現在のところにずっと住み続けたい」と回答した25~44歳の割合。シビックプライドを醸成し、定住意向の向上を図り、令和6年度には50.5%を目指します。

※ H30、R1実績値はWEB調査によるもの。

### <施策に関する基本的方向>

#### 3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる

仕事と家庭の両立を応援する働き盛り世代にとって魅力あるまちを戦略的に発信し、魅力体感イベントの開催や観光・交流施策、多様な住まい方・暮らし方の推進などにより、働き盛り世代が移り住みたいと思うまちづくりを進めます。

#### 3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる

新たな価値を創出するための人と人との出会いや関係性を構築する場づくりや、協働イベントの開催、文化芸術活動、スポーツ活動への参画機会を創出することで、働き盛り世代を中心にシビックプライドを醸成し、まちへの愛着を深め、住み続けたいと思うまちづくりを進めます。

### <施策に関連するSDGs>



## ■ 現状と課題

本市への働き盛り世代の転入の多くは近畿圏、特に大阪府からの流入となっています。しかし、本市への居留意欲や「イメージがいい」と答える人の割合は高いとはいえません。

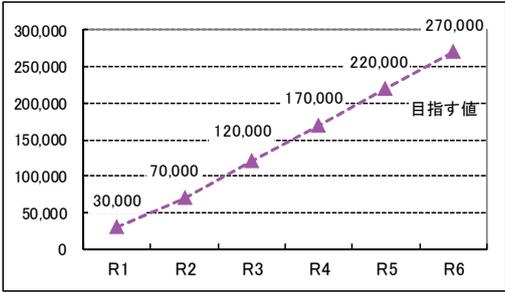
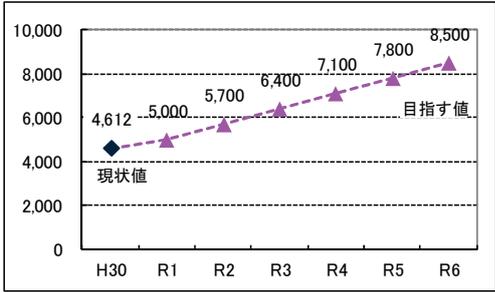
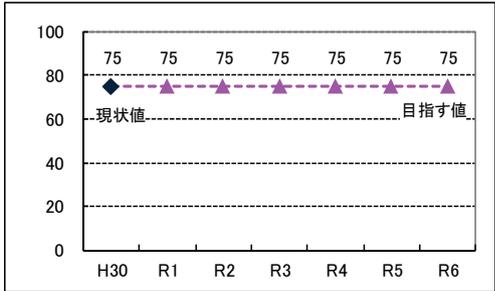
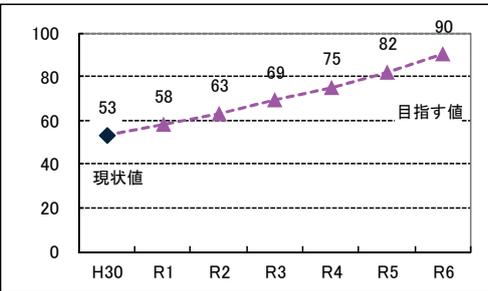
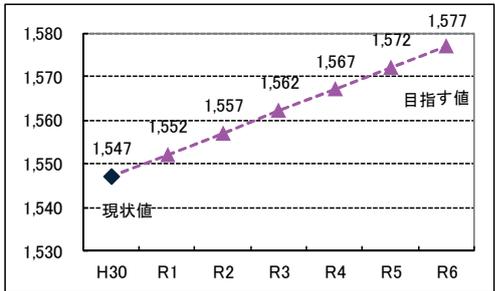
市外の働き盛り世代に、生駒の魅力を効果的に発信し、インバウンドを含めた観光・交流を促す継続的な取組を行うことが必要です。

## ■ 施策の方針

そのため、市外からの流入人口が増える仕組みを構築するため、子育て・教育施策を中心とした行政施策の充実による転入促進策に加え、今後は住宅都市においても変化するライフスタイルにあわせた、多様な住まい方・暮らし方の推進により、まちの魅力発信をはじめU I Jターンを促す取組を進め、働き盛り世代が移り住みたいと思うまちづくりを進めます。

また、交流人口の拡大を図るため、関係機関と連携して、地域の観光資源を国内外に効果的に発信し、観光や交流目的での市内への来訪者の増加を目指します。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<p><b>いこまの魅力創造事業</b></p> <p>市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティプロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブック「まんてんいこま」の運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。</p> <p>また、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。</p>	いこまの魅力創造課	
②	<p><b>観光・交流の促進</b></p> <p>観光関連事業者等と連携して、民間のノウハウや知識を活用しながら、観光客受け入れのために必要なサインの整備や観光客向け体験型コンテンツの企画を行うとともに、SNS等を活用して国内外に観光情報を発信して魅力のPR等に努め、市内を訪れる観光客数や交流人口の増加を目指します。</p>	商工観光課	

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 生駒の魅力に関する情報接触件数 (件)</p>  <p>魅力体感イベント参加者数、ポータルサイトの閲覧数、フリーペーパーの配布数の合計。(累計) 情報の受け手を生駒市への関心度別に分け、それぞれの階層※に最適な情報のタッチポイントを設けていきます。(いこまの魅力創造課)</p>	<p>①-A 「まんてんいこま」の「ページいいね」件数 (件)</p>  <p>市公式フェイスブック「まんてんいこま」の「ページいいね」年間件数。 市民PRチーム「いこまち宣伝部」と連携して情報発信をする市公式フェイスブックページ「まんてん いこま」のページいいね！を増やし、まちの魅力の拡散をします。(いこまの魅力創造課)</p>
	<p>①-B IKOMA SUN FESTA に来場して 生駒市の印象が良かった人の割合 (%)</p>  <p>魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」の来場者アンケートで「生駒に対する印象が良かった」と回答した人の割合。 生駒市に対して良い印象も持つ人を増やし、都市イメージや評判を高めます。(いこまの魅力創造課)</p>
<p>②-1 観光関連セミナー等参加者数 (人)</p>  <p>観光協会や市主催のセミナー、ワークショップ及び交流会の年間延べ参加者数。 観光関連事業者向けに、国内外観光客受入体制の整備促進や、PR 強化、事業者間連携の強化を目的としたセミナーやワークショップを開催します。(商工観光課)</p>	<p>②-A 観光地の来訪者数 (千人)</p>  <p>市内の主要な観光地の年間来訪者数。 国内外に観光情報を発信することにより、魅力のPRに努め、市内に訪れる観光客数の増加を目指します。(商工観光課)</p>

※ 本市への関心度を「未認知層」、「認知層」、「興味関心層」、「転入・定住層」、「ファン層」の5段階に分類。

## ■ 現状と課題

大阪府内の住宅よりも同価格帯で比較的広い住宅を取得できることが本市への転入理由の一つとなっています。一方で、住宅所有者の高齢化やその子どもの独立を機に、空き家となる住宅が増加しつつあります。市内の良好な住宅ストックが市外から転入を検討している子育て世帯に有効活用されるよう支援することが有効です。

## ■ 施策の方針

そのため、住宅都市としての豊富な既存住宅ストックが活用（中古住宅の流通やリノベーション等）されるよう、多様な住まい方・暮らし方を受け入れる基盤・風土づくりに取り組みつつ、若い世帯でも取得しやすい住宅の供給を支援することで、働き盛り世代の流入促進に繋がります。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進</b>	住宅政策室 都市計画課	 
②	<b>移住支援金の交付</b>	商工観光課	  
③	<b>既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進</b>	住宅政策室 建築課	

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 空き家流通プラットフォーム取扱件数 (件)</p> <p>空き家所有者の同意を得て、いこま空き家流通促進プラットフォームに情報提供した物件数。(累計) 埋もれていた空き家情報を不動産市場に浮かび上がらせ、より多くの物件を流通させることを目指します。(住宅政策室)</p>	<p>①-A 流通促進奨励金及びプラットフォーム成約による市外から空き家への転入世帯数 (件)</p> <p>流通促進奨励金交付及びプラットフォーム成約件数のうち市外から転入した世帯の数。(累計) 空き家の流通促進と中古住宅の活用促進により、新規住民の転入を目指します。(住宅政策室)</p>
<p>②-1 マッチングサイトに新たに掲載された求人数 (件)</p> <p>奈良県のマッチングサイトに新たに掲載された生駒市内の求人数。(累計) 奈良県が認定された地方再生計画「東京圏からの県内就労促進と起業支援」において、県のサイトへ積極的に掲載する企業を支援します。(商工観光課)</p>	<p>②-A 移住者数 (人)</p> <p>奈良県移住・就業・起業支援事業による生駒市への移住者数。(累計) 奈良県が認定された地方再生計画「東京圏からの県内就労促進と起業支援」において、移住就業者を支援します。(商工観光課)</p>
<p>③-1 既存住宅耐震診断補助事業利用件数 (件)</p> <p>市内の既存住宅の所有者が行う耐震診断に対する補助件数。(累計) 耐震診断を啓発することにより、市内の住宅の耐震化を目指します。(建築課)</p>	<p>③-A 改修補助等により耐震化した住宅の件数 (件)</p> <p>耐震改修補助及び解体補助を利用して、耐震化された件数。(累計) 耐震改修による流通に適した既存住宅の確保や、解体補助による早期の流通を促進します。(建築課)</p>

## ■ 現状と課題

市民が住み続けたいと思うまちになるためには、公的な仕組みや制度を整えるだけでなく、市民の暮らしが豊かになるような人間関係・協力関係を構築することが必要です。

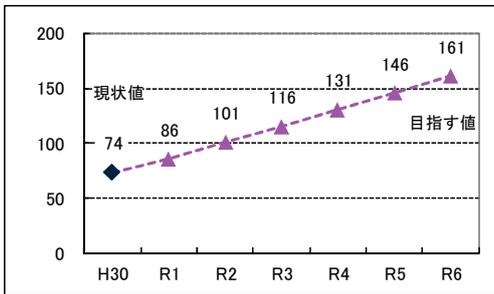
## ■ 施策の方針

そのため、市民や事業者等が出会い、それぞれの思いや夢を共有・共感する場を創造することで、多様な主体との協働によるまちの魅力創出や魅力発信を進め、都市イメージを戦略的に発展させながら、市民から暮らし続けたいと思われるまちづくりを進めます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<p><b>いこまの魅力創造事業</b></p> <p>市民PRチーム「いこまち宣伝部」やシティプロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らす喜びを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくります。</p> <p>また、新しい暮らし方をする人や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思う人の増加を目指します。</p>	いこまの魅力創造課	 
②	<p><b>地域特性に応じたまちづくり（ミライ会議）</b></p> <p>暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場（ミライ会議）をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指します。</p>	都市計画課 住宅政策室	 

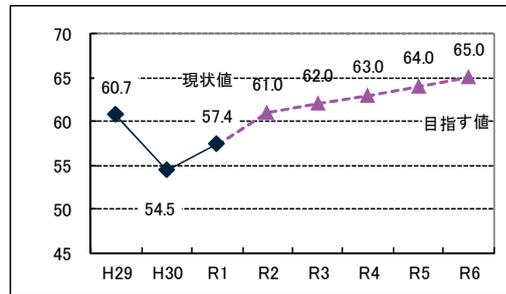
■ K P I (アウトプット指標)      ■ K P I (アウトカム指標)

①-1 地域魅力の創造・発信者育成事業参加者数 (人)



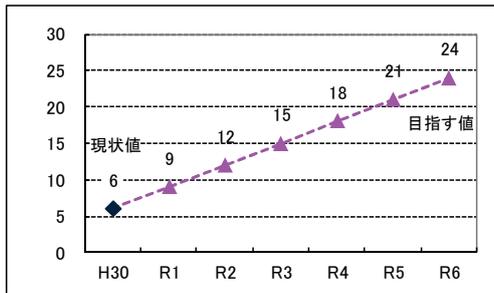
「いこまち宣伝部」等の地域魅力の創造・発信者育成事業参加者数。(累計)  
いこまち宣伝部をはじめ、地域魅力の創造・発信者の育成に資する事業への参加者を増やし、都市ブランドの形成を図ります。(いこまの魅力創造課)

①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている人の割合 (%)



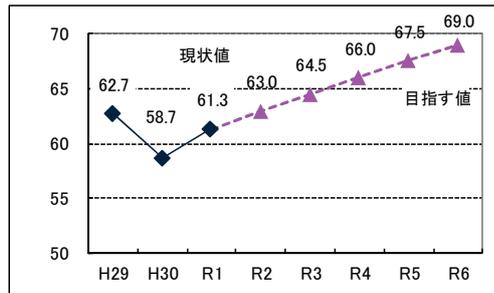
市民満足度調査において、生駒市に住んでいることに「強い誇りを持っている」、「ある程度誇りを持っている」と回答した人の割合。  
誇りを持っている人を増やし、推奨・参画意欲を高めます。(いこまの魅力創造課)  
※ H30、R1 実績値は WEB 調査によるもの。

①-2 都市ブランド構築のための庁内事業連携・支援件数 (件)



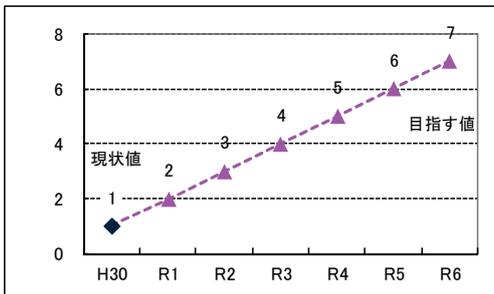
まちづくりの担い手の増加や生駒らしさの形成に役立つ事業支援・連携件数。(累計)  
各課がビジョンを共有し、都市ブランドの構築につなげます。(いこまの魅力創造課)

①-B 推奨意欲を持つ人の割合 (%)



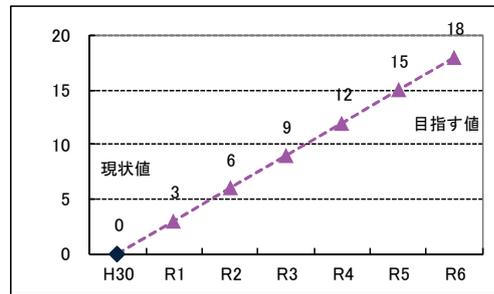
市民満足度調査において、生駒市への居住を知人に「強く薦めたい」、「ある程度薦めたい」と回答した人の割合。  
推奨意欲を高めることにより、暮らすまちとしてのイメージや評判を高めます。(いこまの魅力創造課)  
※ H30、R1 実績値は WEB 調査によるもの。

②-1 ミライ会議の開催地域数 (地域)



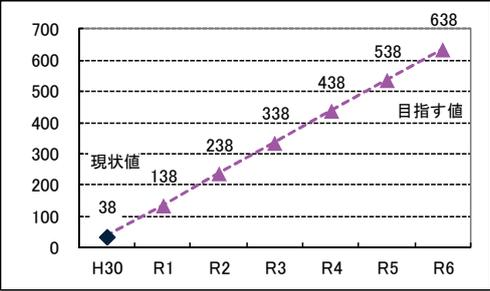
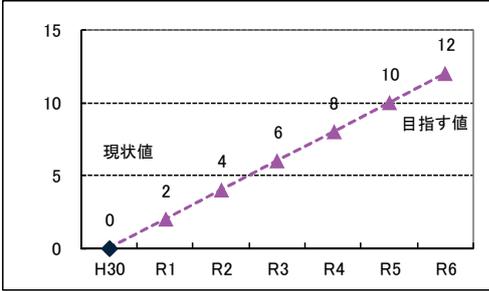
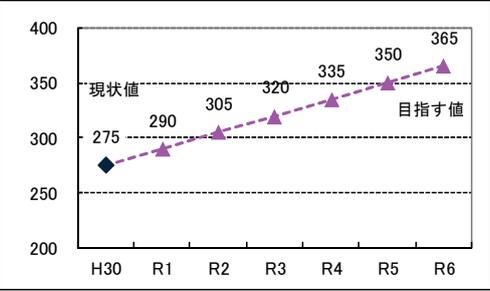
地域ワークショップ「ミライ会議」の開催地域数。(累計)  
地域住民が主体となって、地域特性や将来予測を踏まえ、未来のまちに必要な取組を検討し、その実現を目指します。(都市計画課・住宅政策室)

②-A ミライ会議をきっかけに始動した取組数 (件)



地域ワークショップ「ミライ会議」の開催をきっかけに始動した取組の数。(累計)  
地域住民が主体となって、地域特性や将来予測を踏まえ、未来のまちに必要な取組の増加を目指します。(都市計画課・住宅政策室)

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ S D G s
③	<b>I C Tや民間活力を活かしたまちづくり</b>	いこまの魅力創造課	 
	<p>人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてI C Tやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。</p>		

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>③-1 協創連携に向けたイベント・ワークショップ参加者数 (人)</p>  <p>協創連携に向けたイベントや地域課題解決に向けたワークショップの参加者数。(累計) 協創による地域の課題解決や魅力創造を図ります。(いこまの魅力創造課)</p>	<p>③-A 民間企業等からの相談・提案件数 (件)</p>  <p>地域課題の解決や地域魅力の創造に取り組む民間企業等からの相談・提案件数。(累計) 民間企業等と積極的に対話し、庁内各課と提案の実現に向けて検討・調整します。(いこまの魅力創造課)</p>
<p>③-2 オープンデータ公開件数 (件)</p>  <p>オープンデータポータルサイトにおいて、公開しているデータセットの件数。 毎年度 15 件の新規データセットの登録を目指します。(いこまの魅力創造課)</p>	

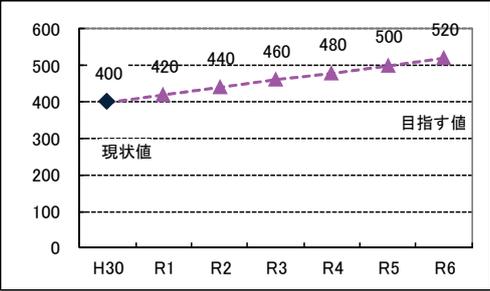
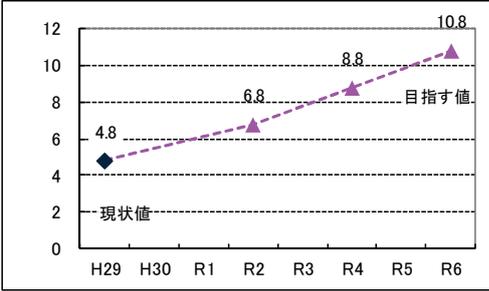
## ■ 現状と課題

人口減少・少子高齢化の進行により、まちの活力低下が懸念されています。一方で、高齢化に伴って、昼夜間人口比率が高まり、大都市に通勤・通学し、市外で消費する暮らし方から、日中の多くの時間を市内で過ごす暮らし方へシフトしつつあり、市内で活動したり、余暇を楽しむニーズが高まっています。

## ■ 施策の方針

そのため、市民、市民団体、事業者、行政等の協働による市内での多様な交流イベント等の開催により、楽しく、活力のあるまちづくりを実現します。また、イベントの主体同士がさらにネットワークを広げ、新たな活動の発展につながるよう支援します。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<b>イコマニア・イベントの実施</b> 市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニア・イベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。	市民活動推進課	 

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)
<p>①-1 イコミア認定事業開催回数 (回)</p>  <p>イコミアとして認定した協働による公共・公益イベントの年間開催回数。 イベント開催を支援することにより、にぎわいのある楽しく活力のあるまちづくりを実現します。(市民活動推進課)</p>	<p>①-A 「市民参加が盛んなまち」というイメージを持つ人の割合 (%)</p>  <p>市民満足度調査において、生駒市のイメージについて「市民参加が盛んなまち」と回答した人の割合。 令和6年度に10.8%になることを目指します。(市民活動推進課)</p>

## ■ 現状と課題

市民満足度調査によると、30歳代・40歳代の生駒市に住んでいることに誇りを持っている人の割合が他世代に比べて低く、働き盛り世代の定住意向を高めるためには、この世代のシビックプライドの醸成を図っていく必要があります。誇りを持ってもらうためには、地域活動への参加が有効的で、同調査の地域活動への参加意向では、30歳代・40歳代は、特に文化・スポーツなどのクラブ活動に対する参加意向が高い傾向にあるものの、仕事や家事によりまとまった時間が確保できないことや、子育て世帯にあっては周囲への配慮から子ども連れでの参加をためらうなどを理由に、参加しづらい状況です。

## ■ 施策の方針

そのため、子育て世帯が子ども連れで参加できるコンサートや親子を対象としたスポーツイベント等の開催により、気軽に文化・スポーツに親しむことができる機会を創出し、働き盛り世代が地域での文化・スポーツ活動への参加を始めるきっかけづくりとします。

加えて、子ども達が小さい頃から地域での文化・スポーツ活動に親しむことで、まちへの愛着や誇りの醸成を図り、成長とともに市外に転出した子ども達（若者）の将来的なUターンの可能性を高めます。

■ 具体的な取組		■ 担当課	■ SDGs
①	<p><b>文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出</b></p> <p>小学校のブラスバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げるため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。</p> <p>また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しめるよう、地域スポーツの中心的な存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。</p>	<p>生涯学習課</p> <p>スポーツ振興課</p>	  

■ K P I (アウトプット指標)	■ K P I (アウトカム指標)																																																																								
<p>①-1 市民みんなで創る音楽祭の参加者数 (人)</p> <p>①-2 0歳から楽しめるファミリーコンサートの参加者数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-1 市民みんなで創る音楽祭の参加者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>5,150</td><td>5,200</td></tr> <tr><td>R1</td><td>5,200</td><td>5,250</td></tr> <tr><td>R2</td><td>5,250</td><td>5,300</td></tr> <tr><td>R3</td><td>5,300</td><td>5,350</td></tr> <tr><td>R4</td><td>5,350</td><td>5,400</td></tr> <tr><td>R5</td><td>5,400</td><td>5,450</td></tr> <tr><td>R6</td><td>5,450</td><td>5,450</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>①-2 0歳から楽しめるファミリーコンサートの参加者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>870</td><td>970</td></tr> <tr><td>R1</td><td>970</td><td>1,070</td></tr> <tr><td>R2</td><td>1,070</td><td>1,170</td></tr> <tr><td>R3</td><td>1,170</td><td>1,270</td></tr> <tr><td>R4</td><td>1,270</td><td>1,370</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1,370</td><td>1,470</td></tr> <tr><td>R6</td><td>1,470</td><td>1,470</td></tr> </tbody> </table> <p>市民がプロデュースする音楽コンサート、子育て世帯が親子で参加できる音楽コンサートへの入場者数。文化芸術活動への参加を促進し、入場者数の増加を目指します。(生涯学習課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	5,150	5,200	R1	5,200	5,250	R2	5,250	5,300	R3	5,300	5,350	R4	5,350	5,400	R5	5,400	5,450	R6	5,450	5,450	年度	現状値	目指す値	H30	870	970	R1	970	1,070	R2	1,070	1,170	R3	1,170	1,270	R4	1,270	1,370	R5	1,370	1,470	R6	1,470	1,470	<p>①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている働き盛り世代の割合 (%)</p> <table border="1"> <caption>①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている働き盛り世代の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>51.1</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R1</td><td>55.3</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>56.3</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>57.3</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>58.3</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R5</td><td>59.3</td><td>58.3</td></tr> <tr><td>R6</td><td>60.3</td><td>58.3</td></tr> </tbody> </table> <p>市民満足度調査において、生駒市に住んでいることに「強い誇りを持っている」、「ある程度誇りを持っている」と回答した働き盛り世代の割合。 誇りを持っている働き盛り世代を増やし、定住意向を高めます。(生涯学習課・スポーツ振興課) ※ H30、R1 実績値は WEB 調査によるもの。</p>	年度	現状値	目指す値	H30	51.1	58.3	R1	55.3	58.3	R2	56.3	58.3	R3	57.3	58.3	R4	58.3	58.3	R5	59.3	58.3	R6	60.3	58.3
年度	現状値	目指す値																																																																							
H30	5,150	5,200																																																																							
R1	5,200	5,250																																																																							
R2	5,250	5,300																																																																							
R3	5,300	5,350																																																																							
R4	5,350	5,400																																																																							
R5	5,400	5,450																																																																							
R6	5,450	5,450																																																																							
年度	現状値	目指す値																																																																							
H30	870	970																																																																							
R1	970	1,070																																																																							
R2	1,070	1,170																																																																							
R3	1,170	1,270																																																																							
R4	1,270	1,370																																																																							
R5	1,370	1,470																																																																							
R6	1,470	1,470																																																																							
年度	現状値	目指す値																																																																							
H30	51.1	58.3																																																																							
R1	55.3	58.3																																																																							
R2	56.3	58.3																																																																							
R3	57.3	58.3																																																																							
R4	58.3	58.3																																																																							
R5	59.3	58.3																																																																							
R6	60.3	58.3																																																																							
<p>①-3 スポーツイベントの参加者数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-3 スポーツイベントの参加者数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>40,769</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R1</td><td>40,900</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R2</td><td>41,000</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R3</td><td>41,200</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R4</td><td>41,300</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R5</td><td>41,400</td><td>41,300</td></tr> <tr><td>R6</td><td>41,500</td><td>41,300</td></tr> </tbody> </table> <p>市、総合型地域スポーツクラブ、体育施設指定管理者等が開催するスポーツ教室やイベントの参加者数。 様々なスポーツニーズに対応できるよう、各種事業の充実を図ります。(スポーツ振興課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	40,769	41,300	R1	40,900	41,300	R2	41,000	41,300	R3	41,200	41,300	R4	41,300	41,300	R5	41,400	41,300	R6	41,500	41,300	<p>①-B 生駒市に住んでいることに誇りを持っている若年世代の割合 (%)</p> <table border="1"> <caption>①-B 生駒市に住んでいることに誇りを持っている若年世代の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H29</td><td>60.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>H30</td><td>60.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>62.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>62.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>62.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R4</td><td>64.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R5</td><td>64.7</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>R6</td><td>66.7</td><td>62.7</td></tr> </tbody> </table> <p>市民満足度調査において、生駒市に住んでいることに「強い誇りを持っている」、「ある程度誇りを持っている」と回答した若年世代(18～24歳)の割合。 誇りを持っている若者を増やし、将来的なUターンの可能性を高めます。(生涯学習課・スポーツ振興課) ※ H29 実績値は 18 歳～29 歳が回答した割合。</p>	年度	現状値	目指す値	H29	60.7	62.7	H30	60.7	62.7	R1	62.7	62.7	R2	62.7	62.7	R3	62.7	62.7	R4	64.7	62.7	R5	64.7	62.7	R6	66.7	62.7																					
年度	現状値	目指す値																																																																							
H30	40,769	41,300																																																																							
R1	40,900	41,300																																																																							
R2	41,000	41,300																																																																							
R3	41,200	41,300																																																																							
R4	41,300	41,300																																																																							
R5	41,400	41,300																																																																							
R6	41,500	41,300																																																																							
年度	現状値	目指す値																																																																							
H29	60.7	62.7																																																																							
H30	60.7	62.7																																																																							
R1	62.7	62.7																																																																							
R2	62.7	62.7																																																																							
R3	62.7	62.7																																																																							
R4	64.7	62.7																																																																							
R5	64.7	62.7																																																																							
R6	66.7	62.7																																																																							
<p>①-4 総合型地域スポーツクラブの会員数 (人)</p> <table border="1"> <caption>①-4 総合型地域スポーツクラブの会員数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状値</th> <th>目指す値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H30</td><td>752</td><td>900</td></tr> <tr><td>R1</td><td>800</td><td>900</td></tr> <tr><td>R2</td><td>850</td><td>900</td></tr> <tr><td>R3</td><td>900</td><td>900</td></tr> <tr><td>R4</td><td>950</td><td>900</td></tr> <tr><td>R5</td><td>1,000</td><td>900</td></tr> <tr><td>R6</td><td>1,050</td><td>900</td></tr> </tbody> </table> <p>市内総合型地域スポーツクラブの会員数。 地域スポーツの中心的存在として活躍が期待できる総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発を行い、クラブ会員の増加を目指し、市民のスポーツ活動の活性化を図ります。(スポーツ振興課)</p>	年度	現状値	目指す値	H30	752	900	R1	800	900	R2	850	900	R3	900	900	R4	950	900	R5	1,000	900	R6	1,050	900																																																	
年度	現状値	目指す値																																																																							
H30	752	900																																																																							
R1	800	900																																																																							
R2	850	900																																																																							
R3	900	900																																																																							
R4	950	900																																																																							
R5	1,000	900																																																																							
R6	1,050	900																																																																							